

7-1. 施工の手順

① 施工前の確認事項

- ・事前に既存屋根材や既存下地等が、直張工法での施工が可能な状態なのか確認を行ってください。確認する内容は、P9～「**⑤ 施工前の確認事項**」を参照してください。併せてP79「10-2.改修物件調査チェックシート」を確認してください。

② 既存部材の取り外しと加工

- ・既存棟包み、既存隅棟包みを取り外してください。
- ・既存ケラバ水切を加工してください（改修用ケラバ水切100を使用する場合は不要）。
- ・既存雨押えを加工してください。

③ 改修用唐草の取り付け

- ・改修用唐草を水平に施工するために、墨出しを行ってください。本体の仕上がりに影響します。
- ・改修用唐草（改修用唐草D、改修用唐草SB、改修用一体唐草16、改修用一体唐草29）を取り付けてください。

④ 下葺き材の施工

- ・下葺き材は、全面に施工してください。
- ・留め具と勾配によって使用する下葺き材が異なります。詳しくは、P12～「**⑥ 下葺き材・留め具の選定**」を参照してください。

⑤ ケラバの施工

- ・ケラバ水切または改修用ケラバ水切100を取り付けてください。

⑥ 墨出し

- ・たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・本体の働き幅で墨出しを行ってください。

⑦ 先付け部材の取り付け

- ・各部位の納め方に応じた、C型捨板や差し棟下地N、谷樋D（II）などの先付け部材を取り付けてください。

⑧ 本体の取り付け

- ・各部位の納め方に応じて本体を切断、加工し取り付けてください。
- ・切断時に出るバリや切り粉は、さびや汚れの原因になりますので、必ず除去してください。
- ・本体の施工方法はP17「**7-3.本体の施工とポイント**」を参照してください。

⑨ 後付け部材の取り付け

- ・各部位の納め方に応じた、棟・隅棟包みDや壁押え部材などの後付け部材を取り付けてください。

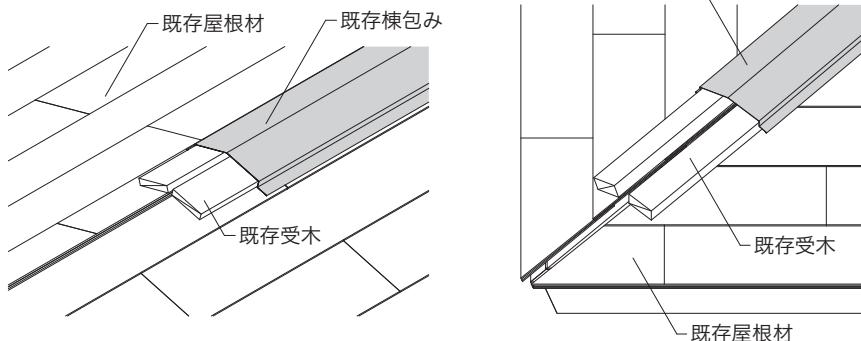
⑩ クリーニング・補修

- ・表面材をクリーニングする場合は、から拭きか、水または中性洗剤で洗浄してください。酸性やアルカリ性の洗剤は塗膜を傷め変色、腐食を招くおそれがあります。洗浄する際は、温水（ぬるま湯程度）を使用すると汚れが落ちやすい傾向があります。中性洗剤で洗浄した後は、水でよく洗い流してください。
- ・洗浄用具としては、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどは使用しないでください。表面材にキズが付き腐食を招くおそれがあります。
- ・補修については、P1～「**① 取り扱い時のお願い**」を確認し、適切に行ってください。

7-2. 下地の調整

●既存棟包み、既存隅棟包みの取り外し

- 既存の棟包み、隅棟包み、受木をすべて取り外してください。



●既存ケラバ水切の加工

・ケラバ水切を使用する場合

既存ケラバ水切は、切断し取り外してください。既存ケラバ水切の残った部分は、既存屋根材に合わせて折り曲げてください。

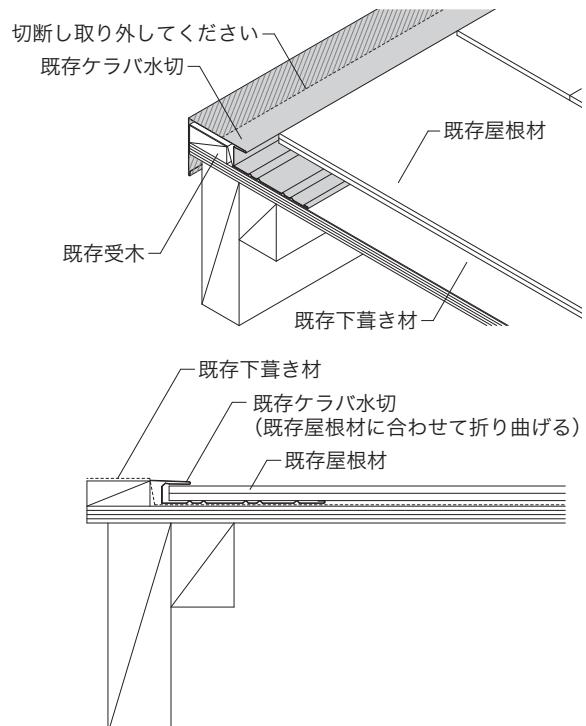
やむを得ず既存ケラバ水切を切断できない場合は、次の点を留意し施工してください。

ケラバ部と本体の高さの違いにより、かん合がしにくくなる場合があります。

・改修用ケラバ水切100を使用する場合

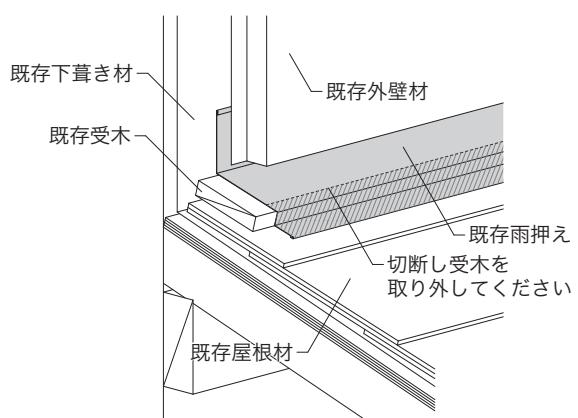
見つけ幅が100mmあるため、既存ケラバ水切の切断と取り外しの必要がなくなりそのまま上からかぶせることができます。

軒先部の既存ケラバ水切は、改修用唐草を取り付けるため、切断してください。



●既存雨押えの加工

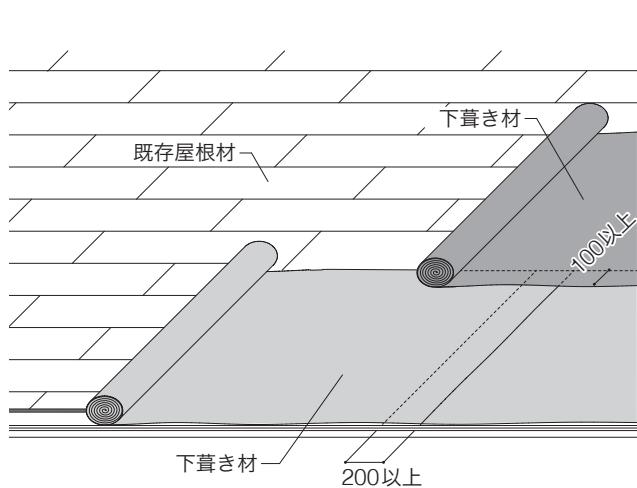
- 既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。



●下葺き材の施工

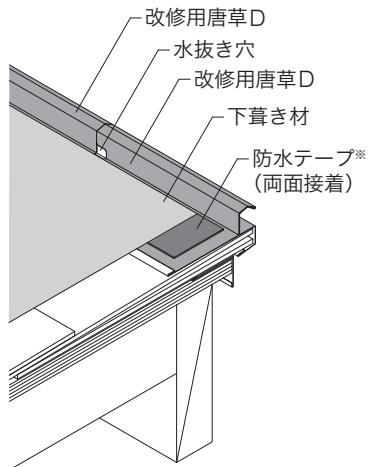
勾配と工法、留め具により下葺き材の種類が異なります。
詳細は、P12～「**⑥下葺き材・留め具の選定**」を参照してください。

一般部



・流れ方向100mm以上、水平方向200mm以上重ねてください。

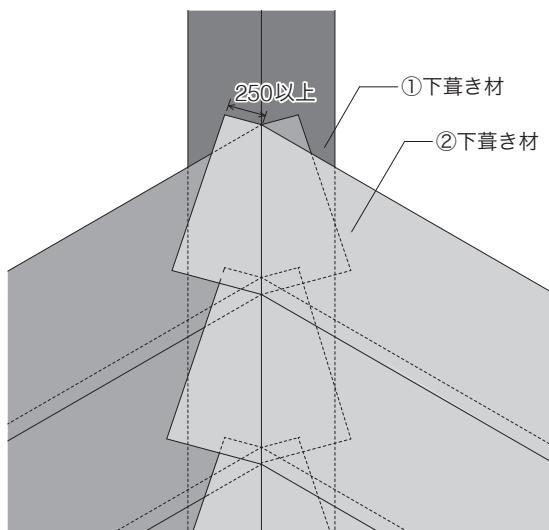
軒先部



- ・唐草部材と下葺き材は、防水テープで密着してください。
- ・唐草部材のつなぎ部にある水抜き穴を、下葺き材でふさがないように注意してください。
- ・下葺き材を施工した後に、唐草部材を施工する場合は、唐草部材を留め付けるくぎ頭にシーリング材を施工してください。

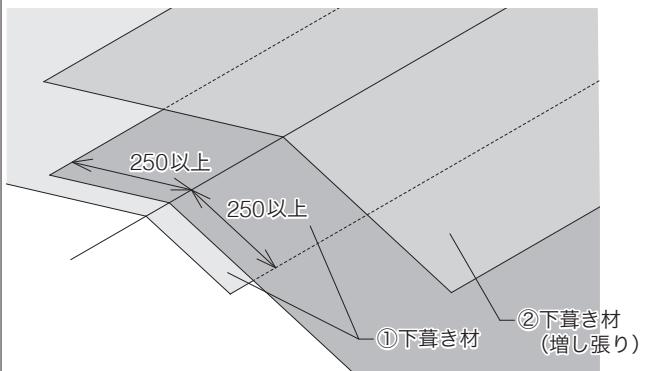
* 粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は無し。

谷部



- ①谷の中心に合わせて施工してください。
②谷を越えて、片側250mm以上ずつ重ねてください。

棟部

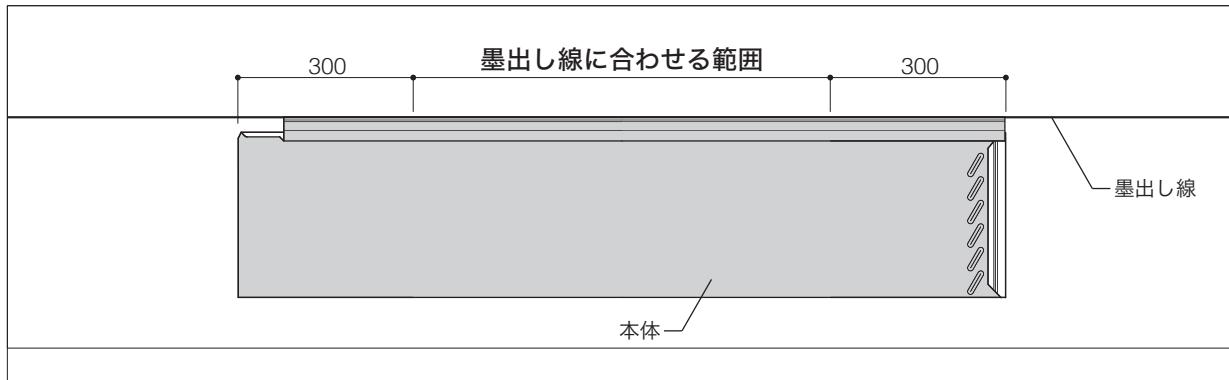


- ①棟を越えて、片側250mm以上重ねて施工してください。
②棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

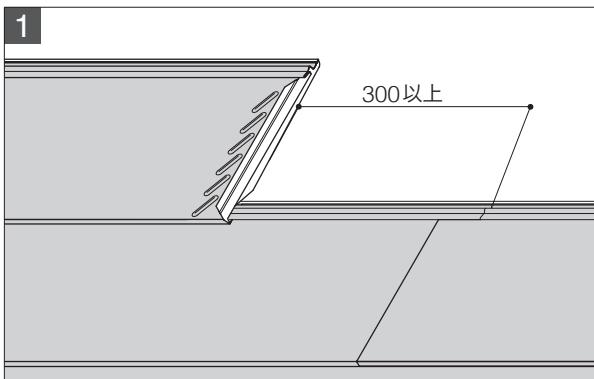
7-3. 本体の施工とポイント

●墨出し線への合わせ方

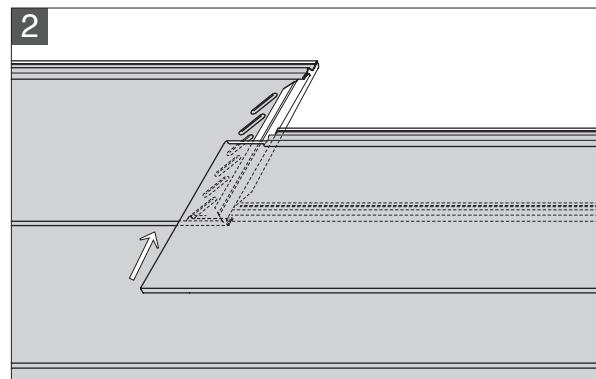
- ・本体を施工する前に、改修用唐草が墨出し線に合わせて施工されている事を確認してください。
- ・本体は、左右両端の300mm程度を除いた範囲を墨出し線に合わせて施工してください。



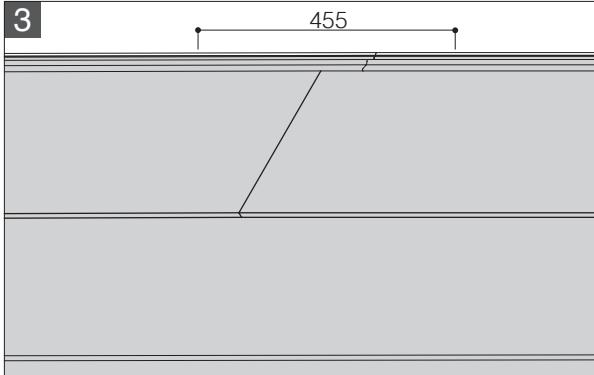
●本体の施工



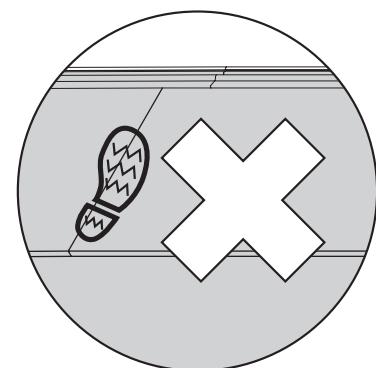
- ・施工は必ず左から右へ行ってください。
- ・横継ぎは必ず横ジョイント部で行ってください。
- ・本体の横ジョイント部は上下で重ならないように300mm以上離して割り付けてください。



- ・横ジョイントは、上図のようにはめ込んでください。
- ・横ジョイントでは、表面鋼板の重なり代を確保するために、左右で数mm程度の段差が発生します。無理に押し込むと本体が歪むおそれがあります。墨出し線に合わせて施工されていることを確認してください。



- ・本体は、455mm間隔以下でたる木に留め付けてください。留め付け方の詳細は、P12～「[6]下葺き材・留め具の選定」を参照してください。

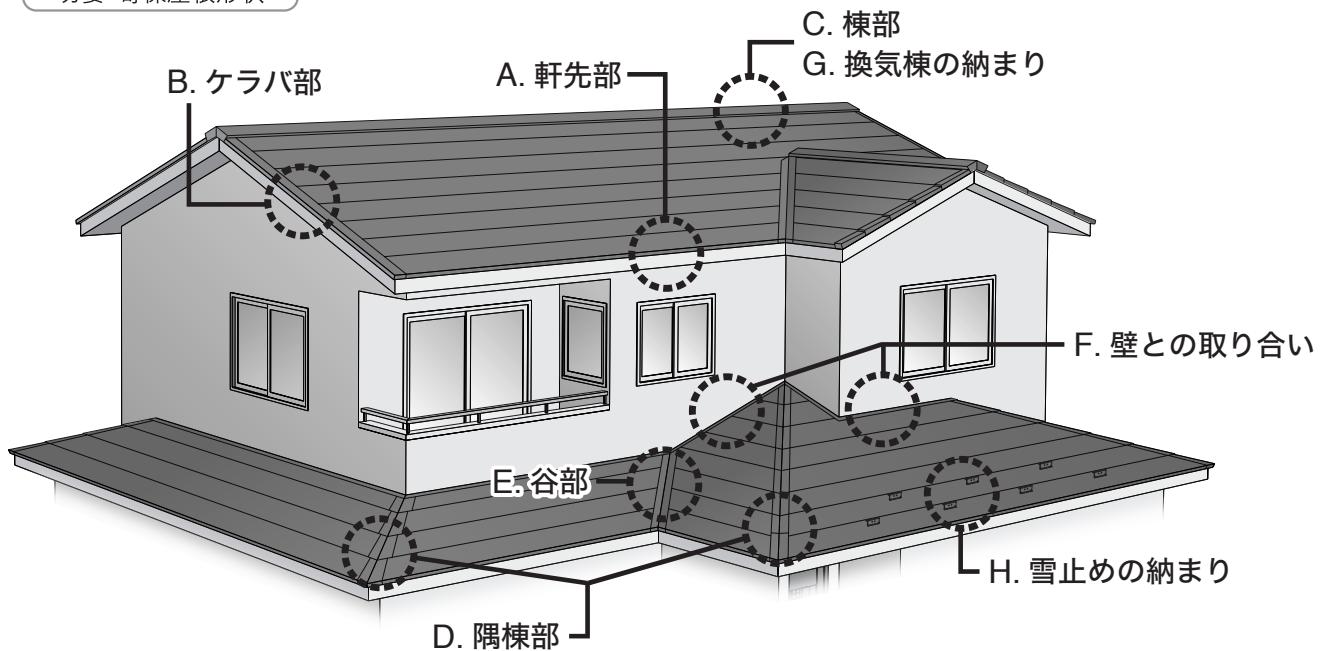


注意

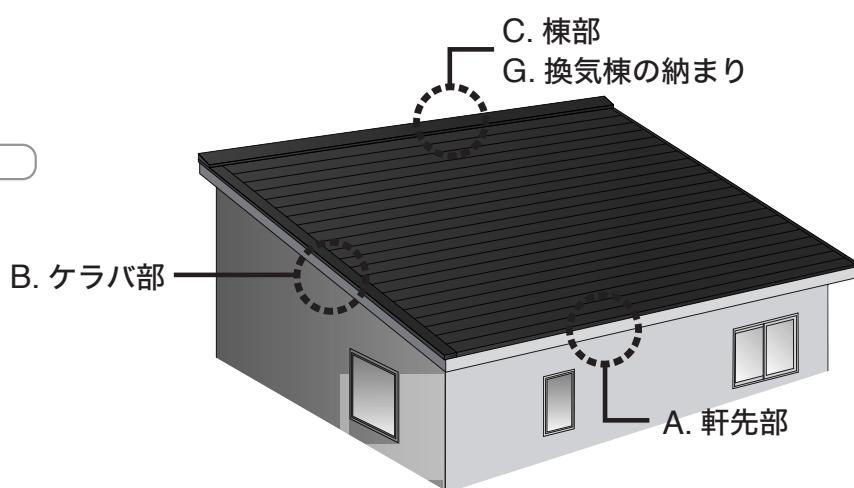
横ジョイント部は、変形のおそれがありますので、上に乗ったり重量物を置いたりしないでください。

7-4. 各部の納まり

切妻・寄棟屋根形状



片流れ屋根形状

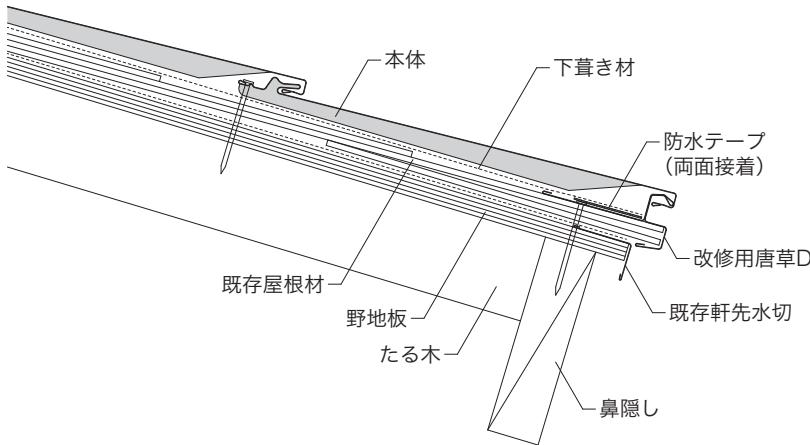


- | | | |
|-------------|-------------|------|
| A. 軒先部 | ・ ・ ・ ・ ・ | P19～ |
| B. ケラバ部 | ・ ・ ・ ・ ・ | P23～ |
| C. 棟部 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ | P37～ |
| D. 隅棟部 | ・ ・ ・ ・ ・ | P40～ |
| E. 谷部 | ・ ・ ・ ・ ・ | P49～ |
| F. 壁との取り合い部 | ・ ・ | P53～ |
| G. 換気棟の納まり | ・ ・ | P58～ |
| H. 雪止めの納まり | ・ ・ ・ | P66 |

単位:mm

A. 軒先部 A-1. 改修用唐草D

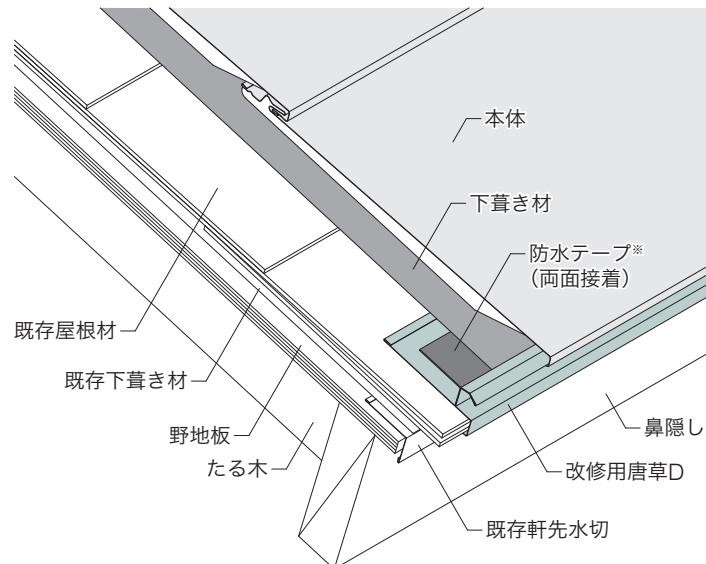
納まり図



施工手順

①改修用唐草Dを取り付ける

- 既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

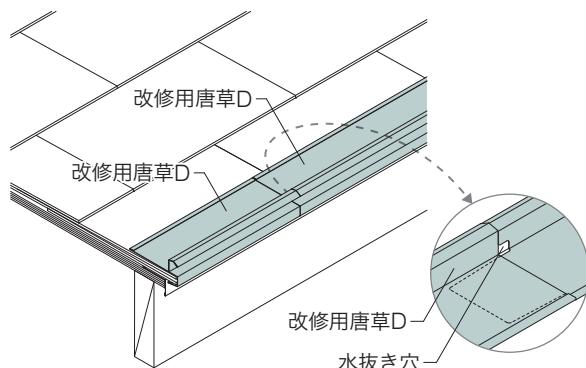
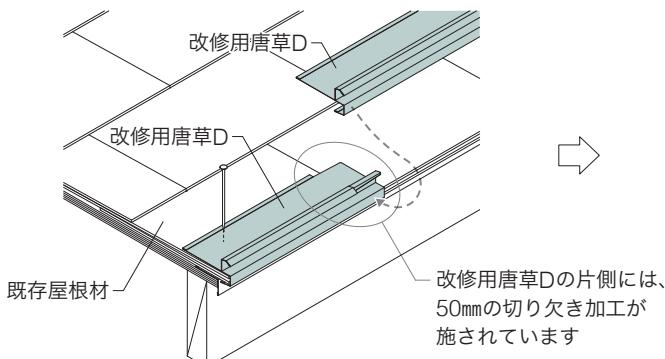


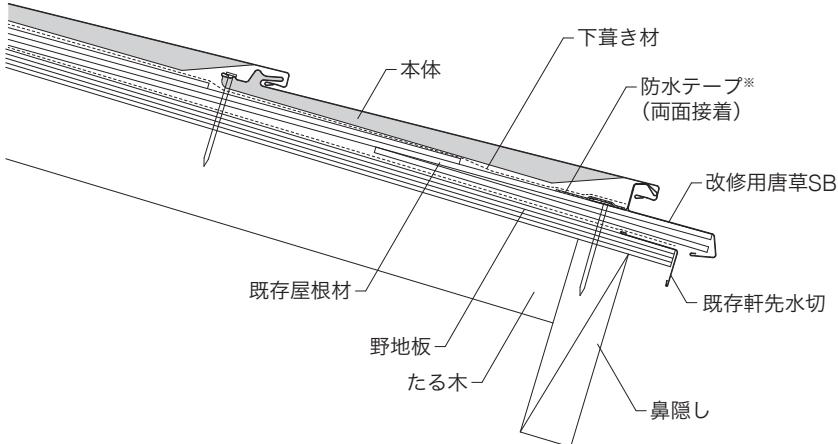
③下葺き材を施工する

④本体を取り付ける

- 本体の施工方法は、P17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。

改修用唐草Dのつなぎ方



A. 軒先部**A-2. 改修用唐草SB****納まり図**

軒先の位置: 変わる

雨どい: 取り替えや位置調整不要

既存軒先水切: 隠れない

施工手順**①改修用唐草SBを取り付ける**

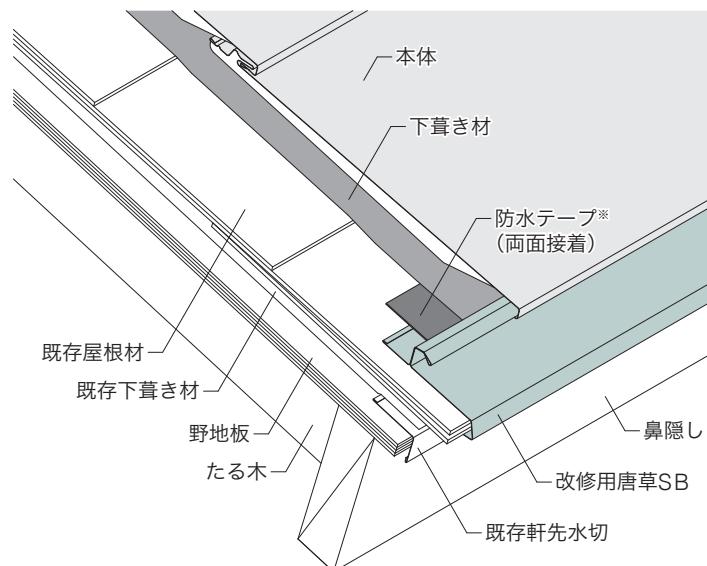
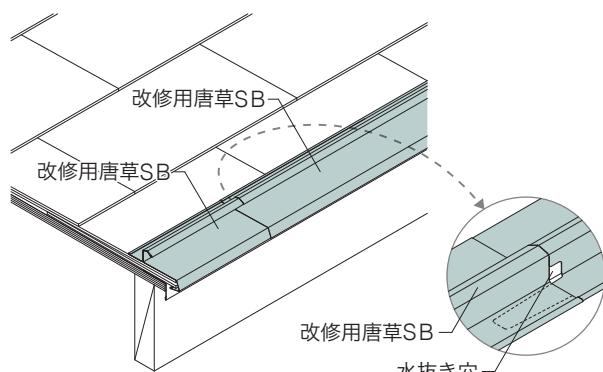
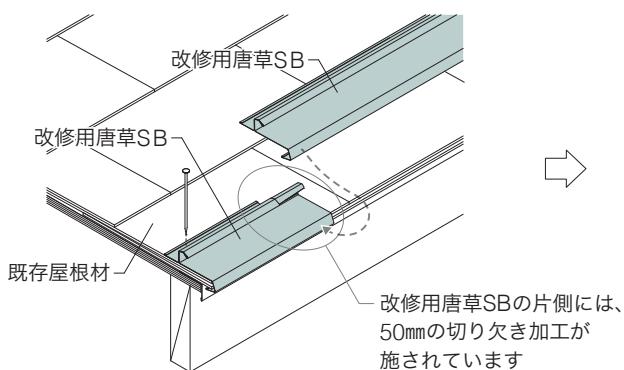
- 既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

②防水テープを貼る

- 両面接着のものを使用してください。
※ 粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

③下葺き材を施工する**④本体を取り付ける**

- 本体の施工方法は、P17「7-3. 本体の施工とポイント」を参照してください。

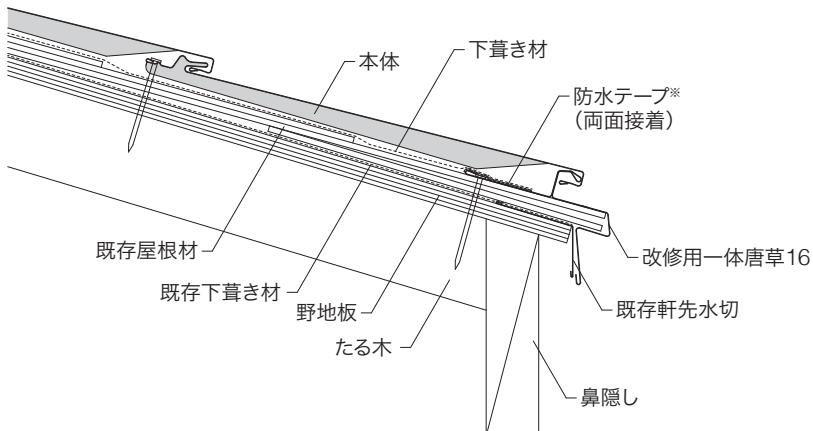
**改修用唐草SBのつなぎ方**

**△ つなぎ部に水抜き穴ができるます。
下葺き材でふさがないよう注意してください。**

単位:mm

A. 軒先部 A-3. 改修用一体唐草16

納まり図



軒先の位置: 変わる

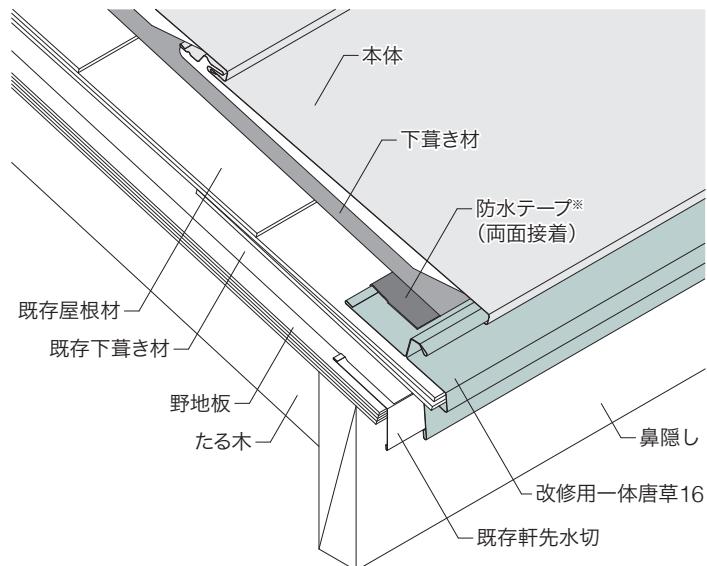
雨どい: 取り替えや位置調整不要

既存軒先水切: 隠れる

施工手順

①改修用一体唐草16を取り付ける

- 既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。



②防水テープを貼る

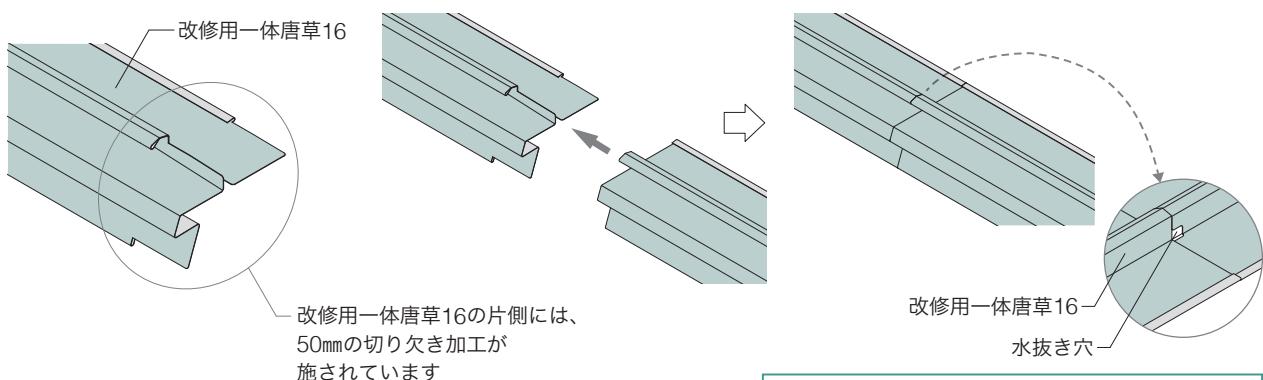
- 両面接着のものを使用してください。
※ 粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

③下葺き材を施工する

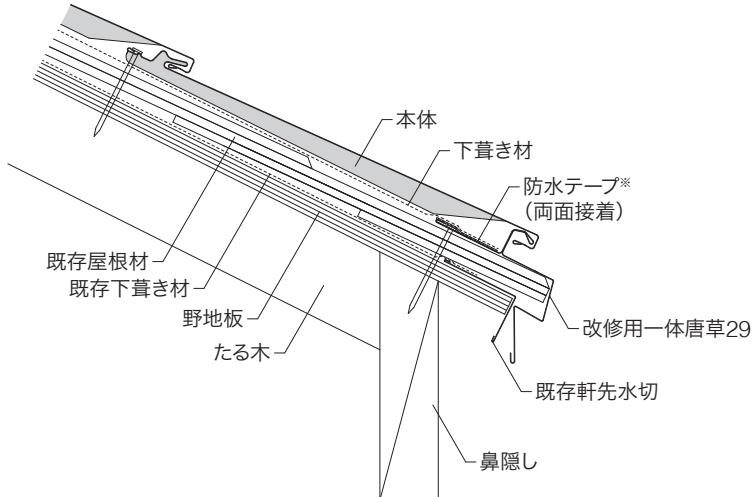
④本体を取り付ける

- 本体の施工方法は、P17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。

改修用一体唐草16のつなぎ方



つなぎ部に水抜き穴ができます。
下葺き材でふさがないよう注意してください。

A. 軒先部**A-4. 改修用一体唐草29****(納まり図)**

軒先の位置: 変わる

雨どい: 取り替えや位置調整不要

既存軒先水切: 隠れる

- ・厚みのある住宅屋根用スレートの場合や、合板を増し張りする場合にご使用いただけます。

(施工手順)**①改修用一体唐草29を取り付ける**

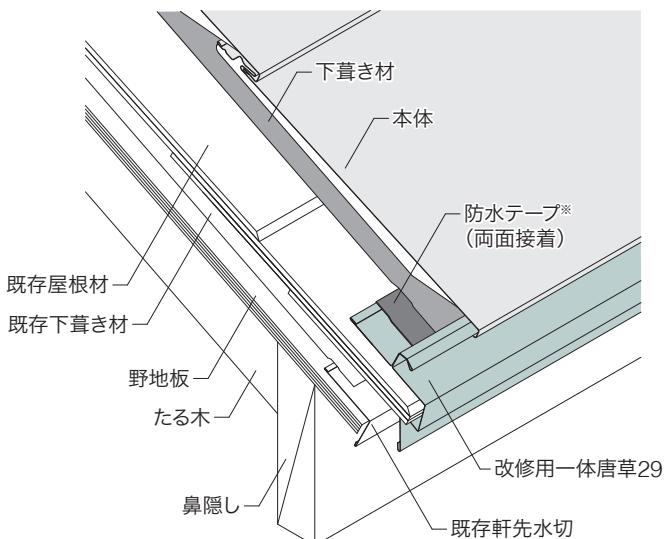
- ・既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

②防水テープを貼る

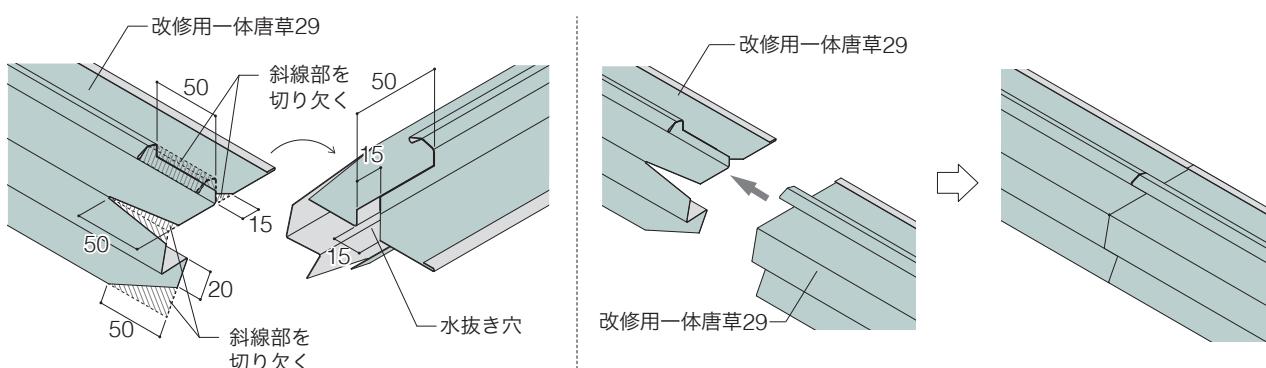
- ・両面接着のものを使用してください。
※ 粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

③下葺き材を施工する**④本体を取り付ける**

- ・本体の施工方法は、P17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。

**(改修用一体唐草29のつなぎ方)**

- ・改修用一体唐草29同士をつなぐ際は、図を参考に片側に50mmの切り欠き加工をしてから施工してください。

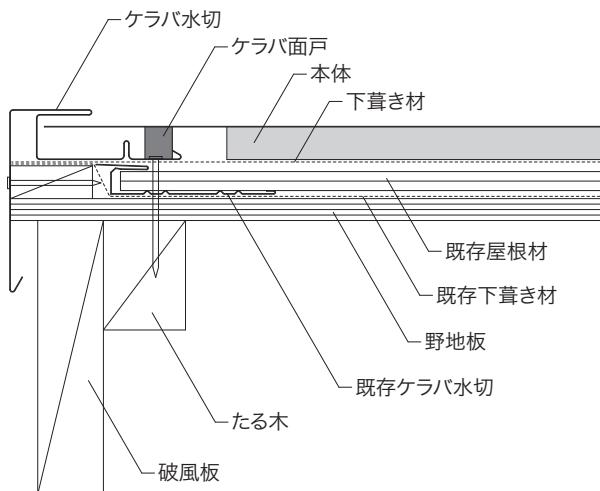


単位:mm

B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切

●ケラバ面戸を併用して納める場合[推奨]

(納まり図)

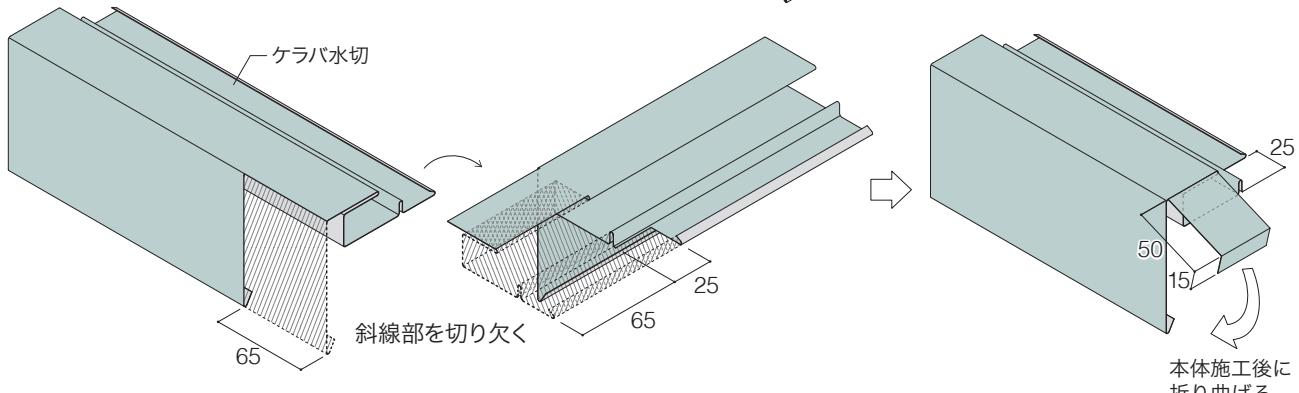
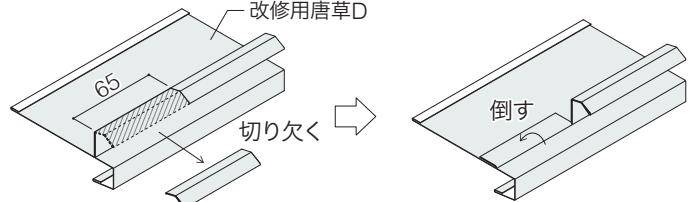


- ・ケラバ水切を使用する場合の、より防水性を高めるための推奨の納まりです。

(施工手順) 改修用唐草Dを使用した場合の図です。他の唐草部材との取り合いはP27～を参照してください。

①部材の加工

- ・改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、図のように加工してください。
- ・ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
- ・ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。



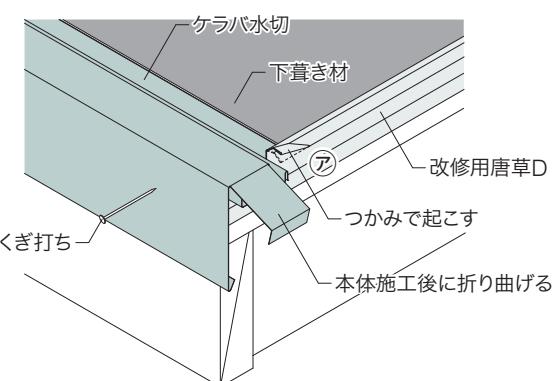
②改修用唐草Dを取り付ける

- ・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください (P19参照)。

③下葺き材を施工する

④ケラバ水切を取り付ける

- ・ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草Dの引っ掛け部(右図⑦)をつかみで起こしてください。

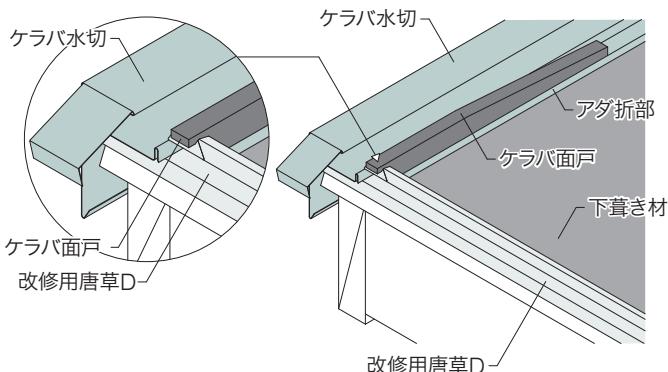
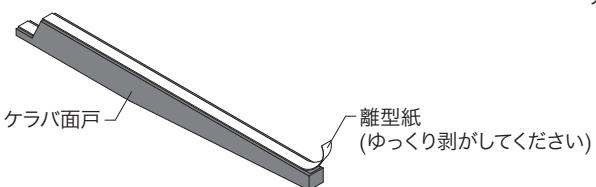


B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切

●ケラバ面戸を併用して納める場合[推奨]

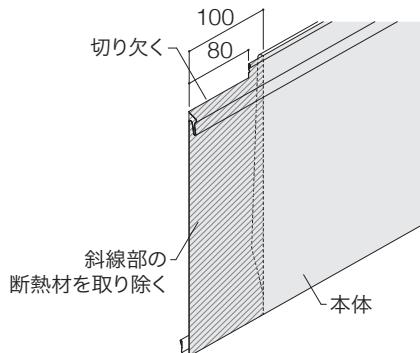
⑤ケラバ面戸を貼り付ける

- ・ケラバ面戸は、改修用唐草Dの引っ掛け部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。
- ・他の改修用唐草を使用する場合も同様に貼り付けてください。
- ・ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。



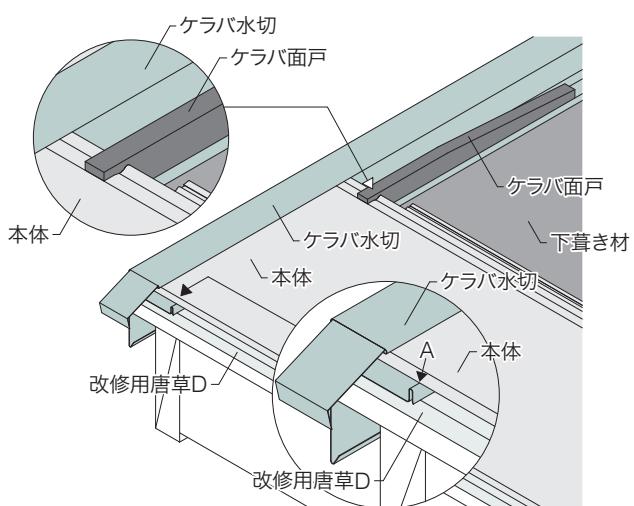
⑥本体を加工する

- ・切断部から断熱材を100mm程度取り除き、くぎ打ち部を80mm程度切り欠いてください。



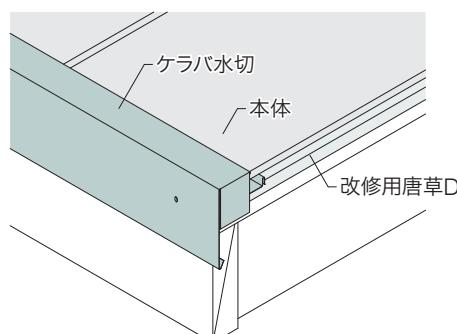
⑦本体を取り付ける

- ・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛け、ケラバ水切のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。
- ・ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体かん合部にも隙間がないように密着させてください。
- ・二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。



⑧ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

- ・ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します(P29参照)。

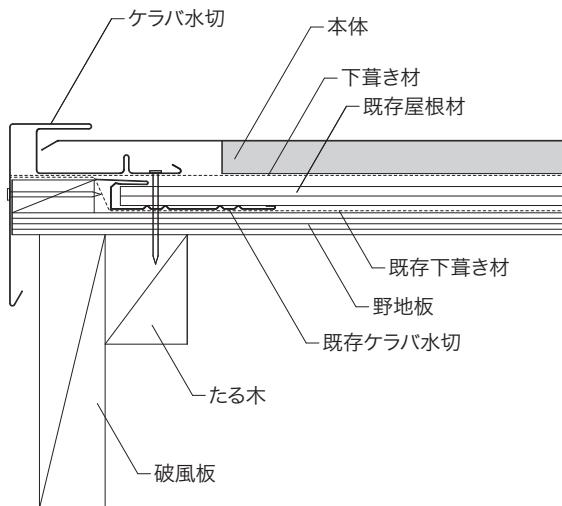


単位:mm

B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切

●ケラバ水切のみで納める場合

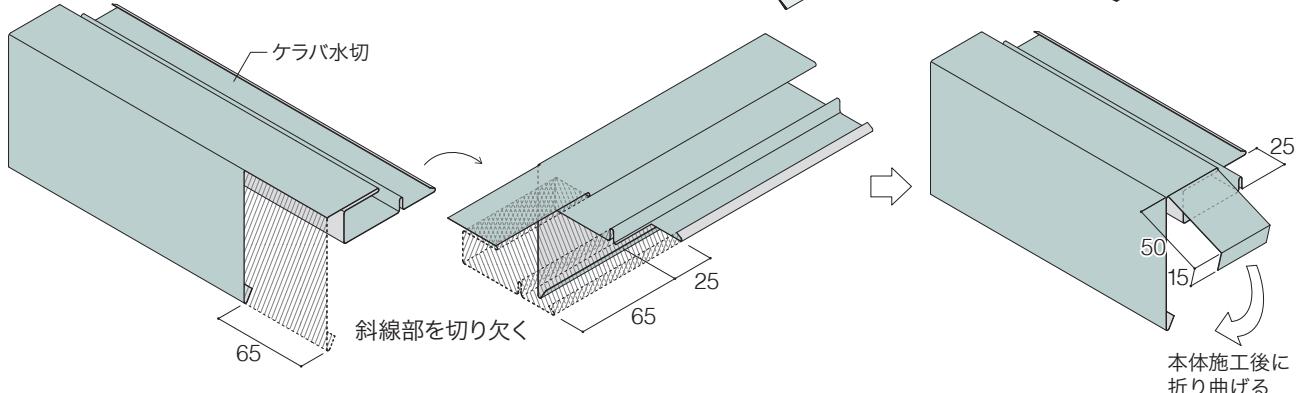
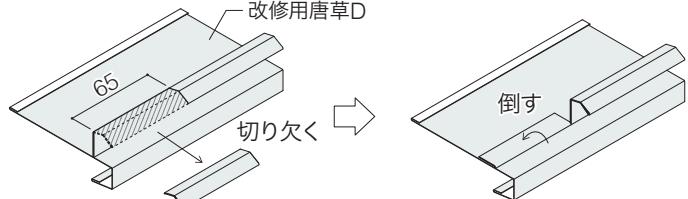
(納まり図)



(施工手順) 改修用唐草Dを使用した場合の図です。他の唐草部材との取り合いはP27～を参照してください。

①部材の加工

- 改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、図のように加工してください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
- ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。



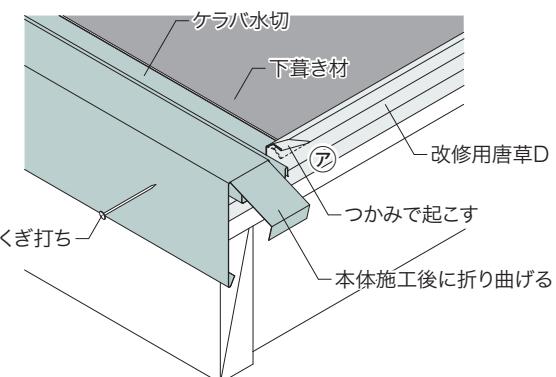
②改修用唐草Dを取り付ける

- 下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください (P19参照)。

③下葺き材を施工する

④ケラバ水切を取り付ける

- ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草Dの引っ掛け部 (右図Ⓐ) をつかみで起こしてください。

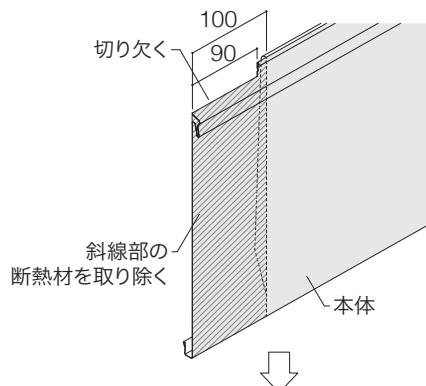


B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切

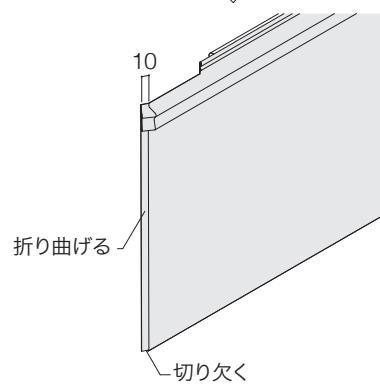
●ケラバ水切のみで納める場合

⑤本体を加工する

- ・切断部から断熱材を100mm程度取り除き、くぎ打ち部を90mm程度切り欠いてください。

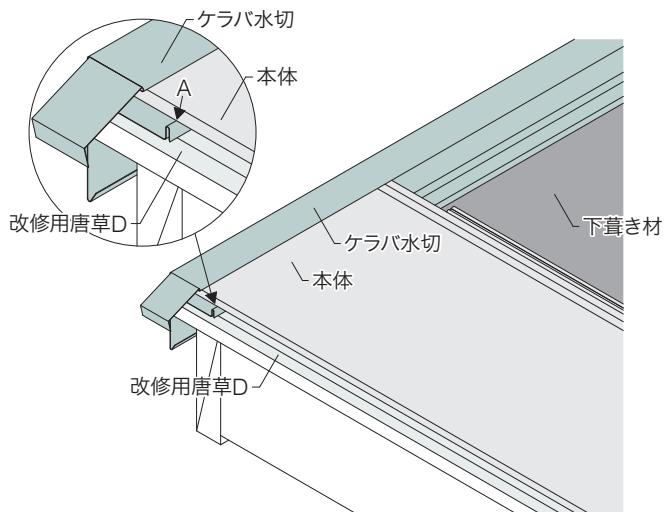


- ・本体の端部は10mm程度折り曲げてください。



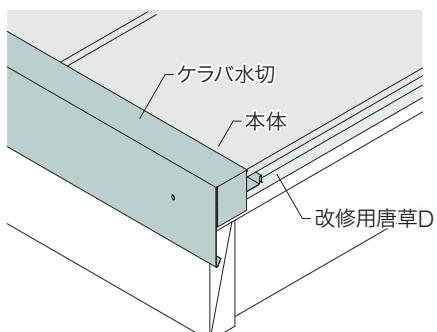
⑥本体を取り付ける

- ・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛け、ケラバ水切のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑦ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

- ・ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します(P29参照)。



単位:mm

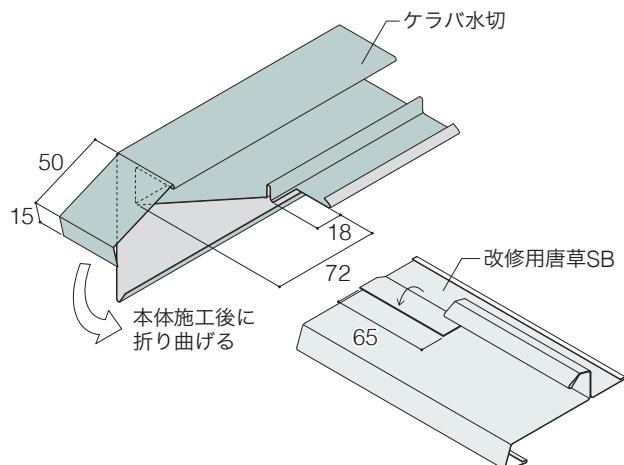
B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切

●改修用唐草SBとの取り合い

施工手順

①部材の加工

- 改修用唐草SBとケラバ水切の取り合いは、右図のように加工してください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
- ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。



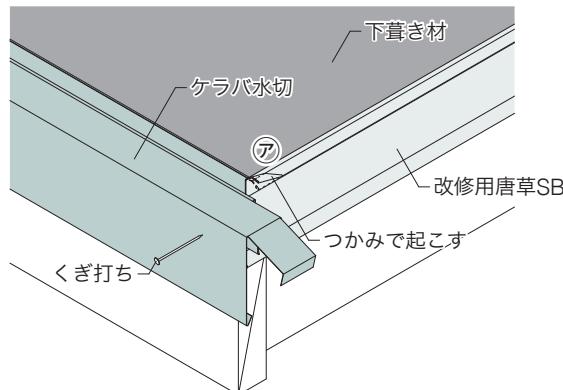
②改修用唐草SBを取り付ける

- 下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください(P20参照)。

③下葺き材を施工する

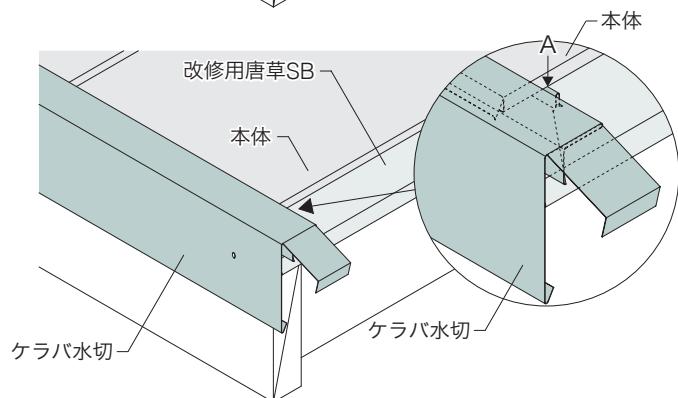
④ケラバ水切を取り付ける

- ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草SBの引っ掛け部(右図Ⓐ)をつかみで起こしてください。



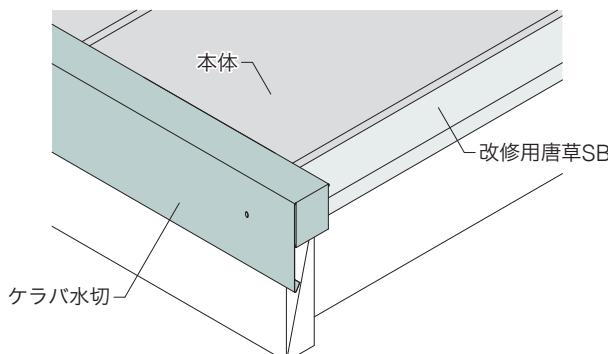
⑤本体を加工し、取り付ける

- 本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
 - ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合:P24
 - ケラバ水のみで納める場合:P26
- 本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草SBに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

- ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します(P29参照)。



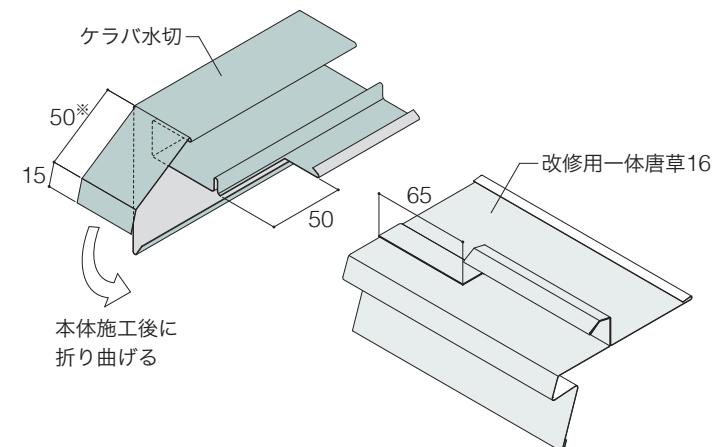
B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切 ●改修用一体唐草16／改修用一体唐草29との取り合い

施工手順 図は、改修用一体唐草16で記載しています。

①部材の加工

- 改修用一体唐草16(改修用一体唐草29)とケラバ水切の取り合いは、右図のように加工してください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
- ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。

※ 改修用一体唐草29の場合は、63mmにしてください。



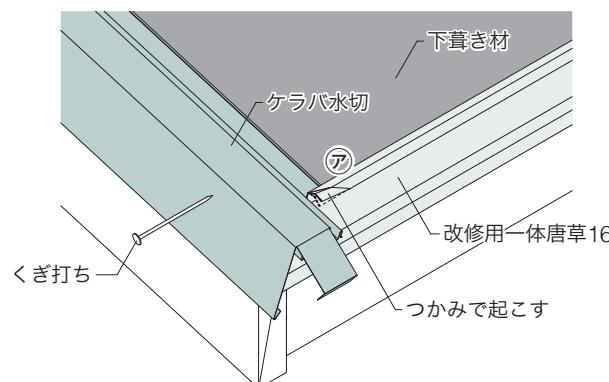
②改修用一体唐草16を取り付ける

- 下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください(P21、22参照)。

③下葺き材を敷く

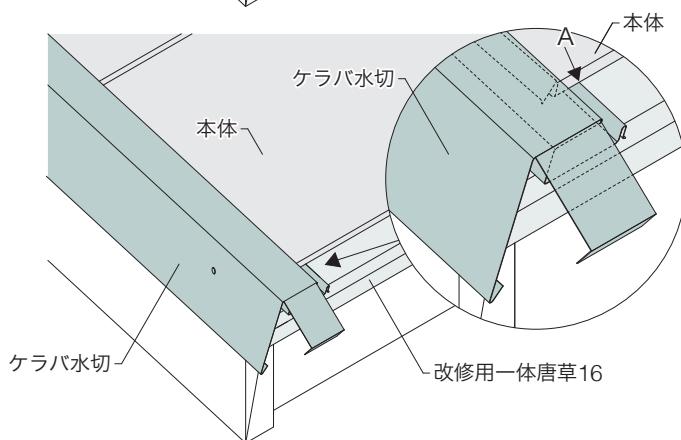
④ケラバ水切を取り付ける

- ケラバ水切を取り付けた後に改修用一体唐草16(改修用一体唐草29)の引っ掛け部(右図Ⓐ)をつかみで起こしてください。



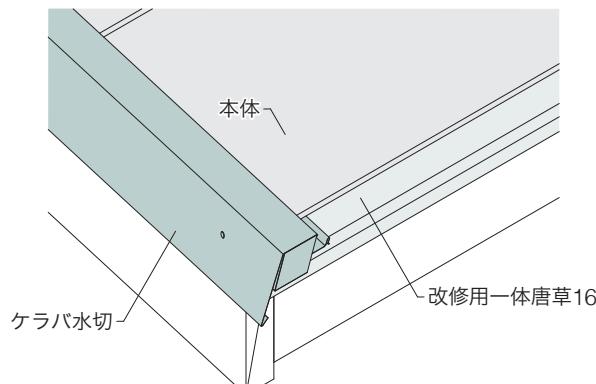
⑤本体を加工し、取り付ける

- 本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
- ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合：P24
ケラバ水切のみで納める場合：P26
- 本体の一段目の下ハゼは、改修用一体唐草16(改修用一体唐草29)に引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

- ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します(P29参照)。



単位:mm

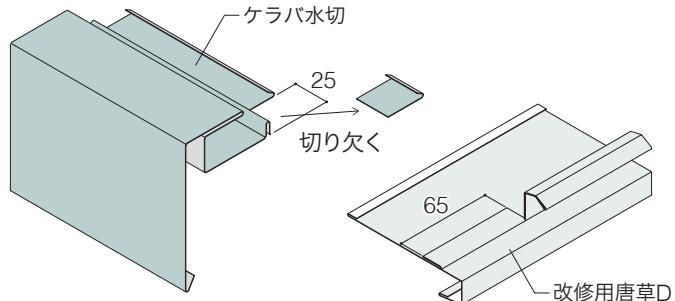
B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切

●ケラバ水切エンドの取り付け方

(施工手順) 改修用唐草Dを使用した場合の図です。

①部材の加工

- 改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、右図のように加工してください。



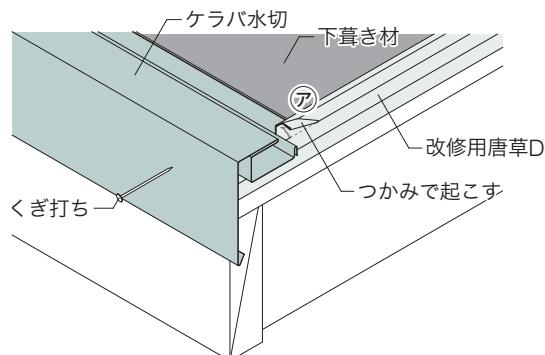
②改修用唐草Dを取り付ける

- 下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください(P19参照)。

③下葺き材を施工する

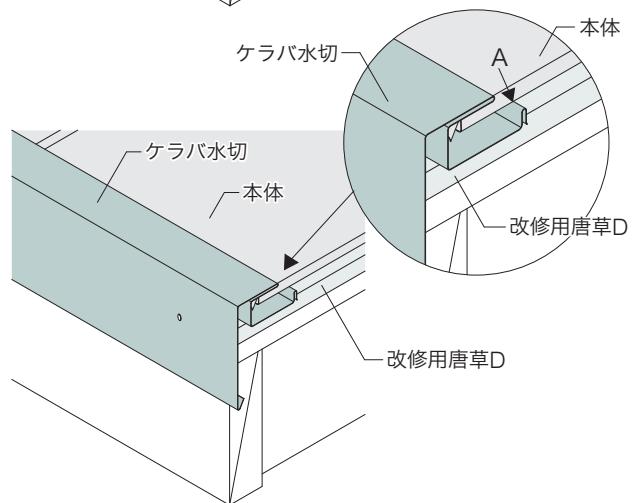
④ケラバ水切を取り付ける

- ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草Dの引っ掛け部(右図Ⓐ)をつかみで起こしてください。



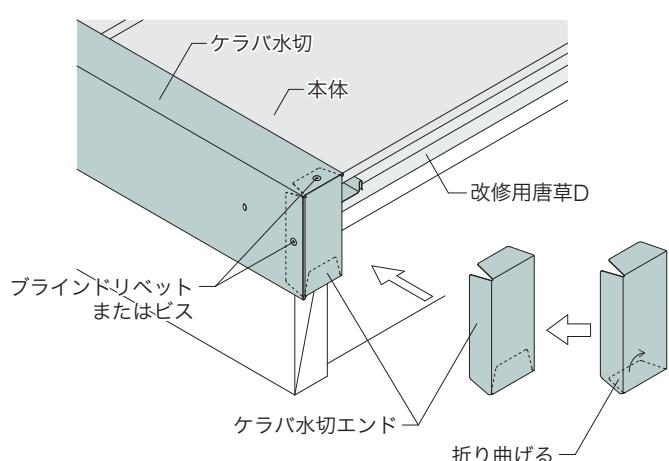
⑤本体を加工し、取り付ける

- 本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合:P24
ケラバ水切のみで納める場合:P26
- 本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛け、ケラバ水切のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切エンドを取り付ける

- ケラバ水切エンドの下部を、ケラバ水切の方向に合わせて折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドをケラバ水切に差しこみ、ブラインドリベットまたはビスで2カ所留め付けてください。
- ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。

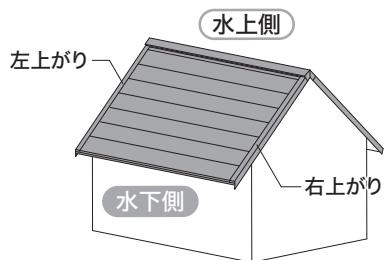


B. ケラバ部 B-1. ケラバ水切

●ケラバ水切のつなぎ方

ケラバ水切のつなぎ方

- ・ケラバ水切同士をつなぐ際は、50mm程度の切り欠き加工をしてください。
- ・施工する方向により切り欠き加工が異なりますので、注意してください。

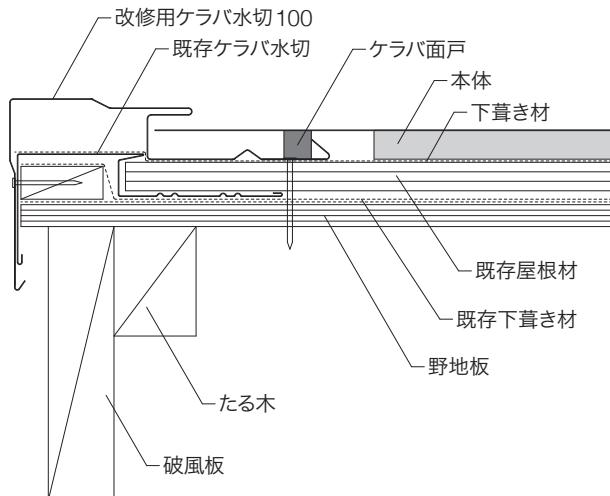


左上がりの加工	右上がりの加工
<p>(水上側)</p> <p>ケラバ水切 (水上側)</p> <p>50 切り欠く</p>	<p>(水上側)</p> <p>ケラバ水切 (水上側)</p> <p>50mm程度 切り欠く</p> <p>50 切り欠く</p>
<p>(水下側)</p> <p>ケラバ水切 (水下側)</p> <p>50 切り欠く</p> <p>50 切り欠く</p> <p>つかみで広げておく</p> <p>重ねる前につかみでつぶす</p>	<p>(水下側)</p> <p>重ねる前に つかみでつぶす</p> <p>つかみで 広げておく</p> <p>50 切り欠く</p> <p>50 切り欠く</p> <p>ケラバ水切 (水下側)</p>
左上がりのつなぎ方	右上がりのつなぎ方
<p>水下側のケラバ水切を下に施工してください。</p> <p>流れ 方向</p> <p>差し込んで スライドさせる</p> <p>ケラバ水切 (水上側)</p> <p>ケラバ水切 (水下側)</p>	<p>水下側のケラバ水切を下に施工してください。</p> <p>流れ 方向</p> <p>差し込んで スライドさせる</p> <p>ケラバ水切 (水上側)</p> <p>ケラバ水切 (水下側)</p>

単位：mm

B. ケラバ部 B-2. 改修用ケラバ水切 100 ●ケラバ面戸を併用して納める場合 [推奨]

(納まり図)

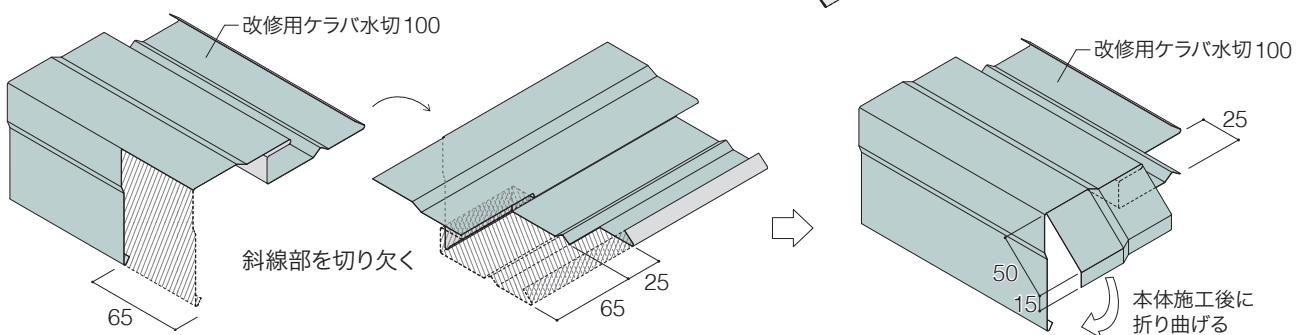
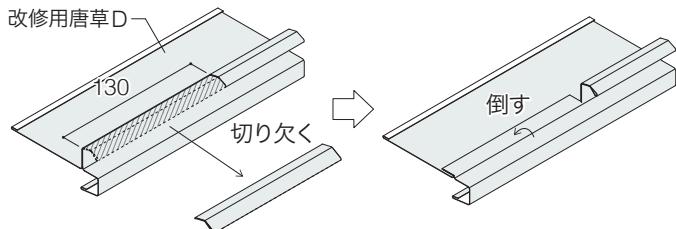


- 改修用ケラバ水切 100を使用する場合の、より防水性を高めるための推奨の納まりです。

(施工手順) 改修用唐草Dを使用した場合の図です。

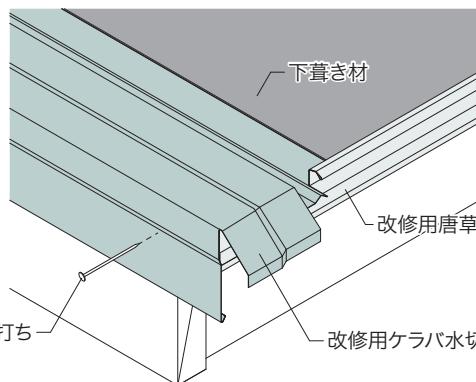
①部材の加工

- 改修用唐草Dと改修用ケラバ水切 100の取り合いは、右図のように加工してください。
- 改修用ケラバ水切 100の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。



②改修用唐草Dを取り付ける

- 既存ケラバ水切の軒先部を事前に切断してください。
- 下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください(P19参照)。



③下葺き材を施工する

④改修用ケラバ水切 100を取り付ける

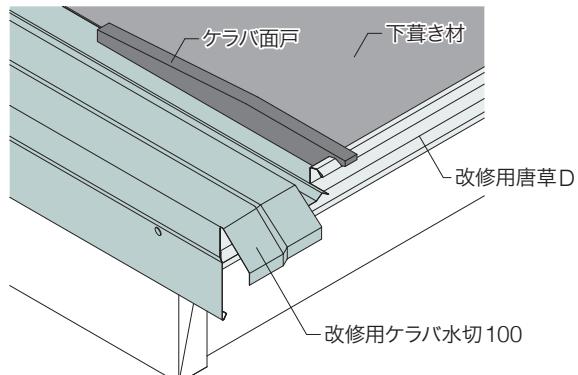
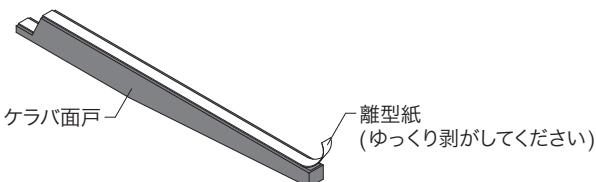
- 改修用ケラバ水切 100の側面を留め付ける際は、リブを目安にしてください。

B. ケラバ部 B-2. 改修用ケラバ水切 100 ●ケラバ面戸を併用して納める場合 [推奨]

⑤ケラバ面戸を貼り付ける

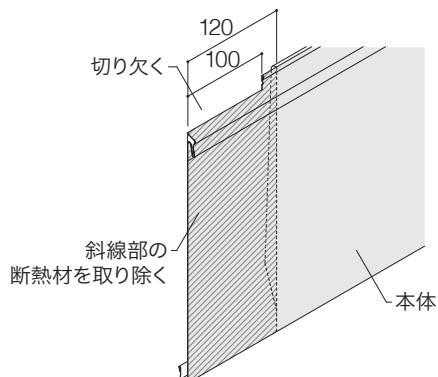
- ・ケラバ面戸は、改修用唐草Dの引っ掛け部から貼りはじめ、改修用ケラバ水切100のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。

- ・ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。



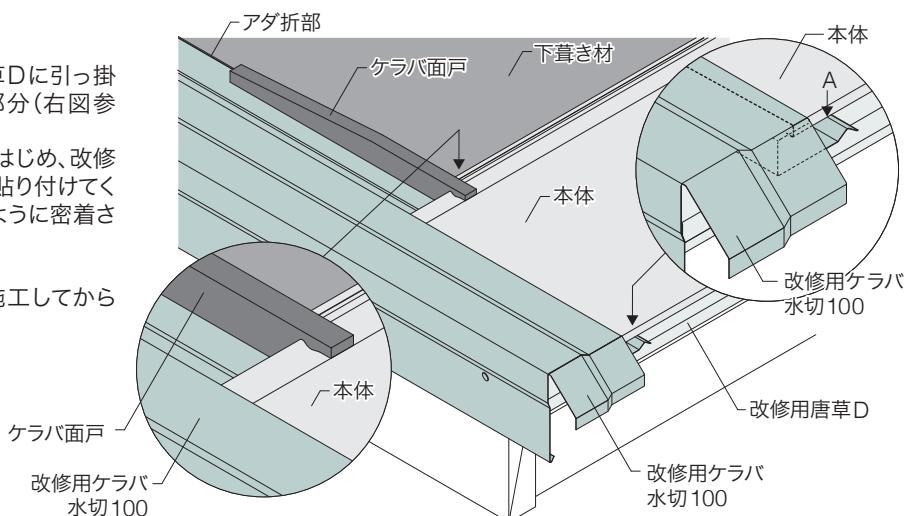
⑥本体を加工する

- ・切断部から断熱材を120mm程度取り除き、くぎ打ち部を100mm程度切り欠いてください。



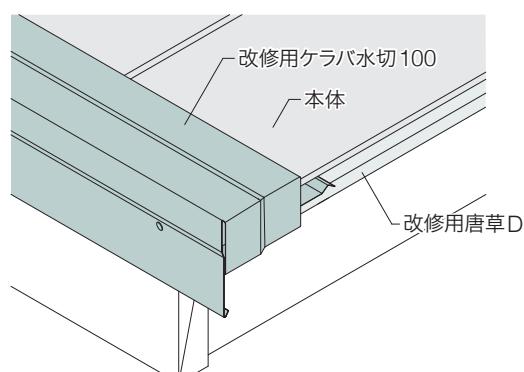
⑦本体を取り付ける

- ・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛け、改修用ケラバ水切100のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。
- ・ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、改修用ケラバ水切100のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体かん合部にも隙間がないように密着させてください。
- ・二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。



⑧改修用ケラバ水切100の軒先側端部を折り曲げる

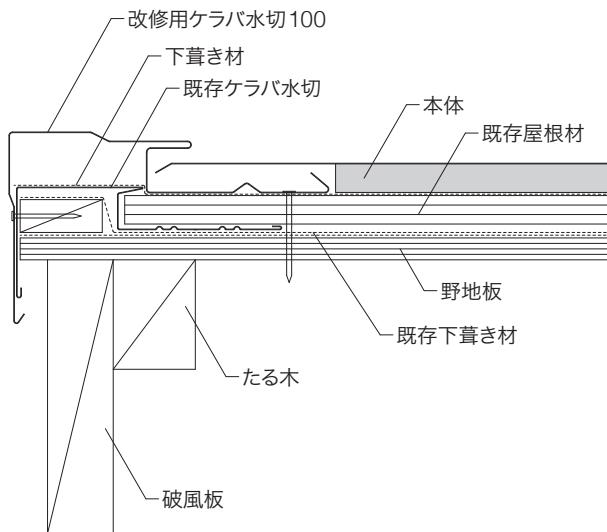
- ・ケラバ水切100エンド(左)/(右)を併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します(P35参照)。



単位:mm

B. ケラバ部 B-2. 改修用ケラバ水切 100 ●改修用ケラバ水切 100のみで納める場合

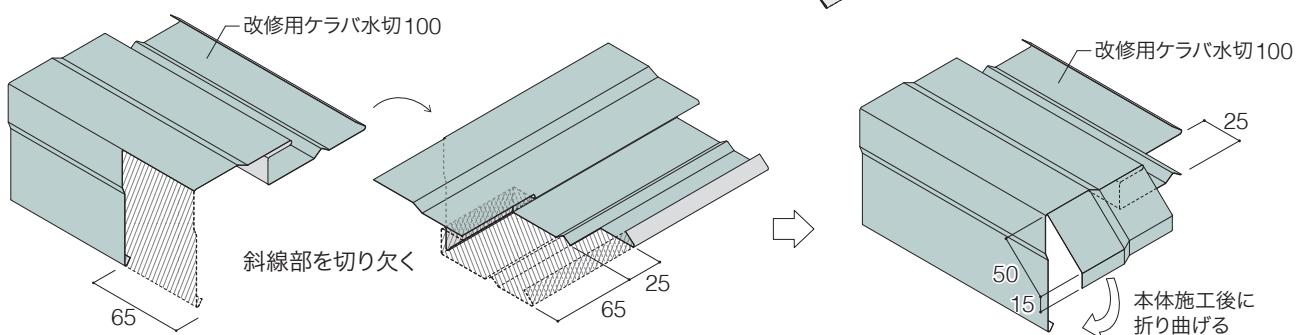
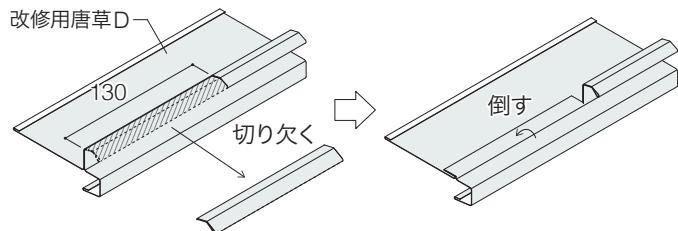
(納まり図)



(施工手順) 改修用唐草Dを使用した場合の図です。

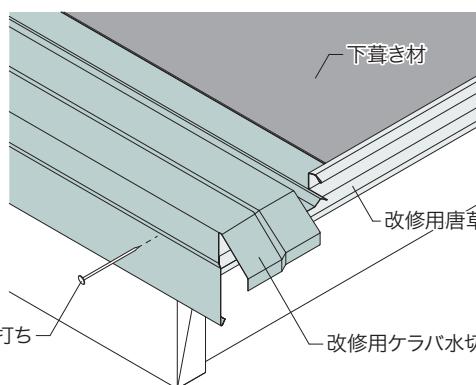
①部材の加工

- 改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、右図のように加工してください。
- 改修用ケラバ水切100の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。



②改修用唐草Dを取り付ける

- 既存ケラバ水切の軒先部を事前に切断してください。
- 下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください(P19参照)。



③下葺き材を施工する

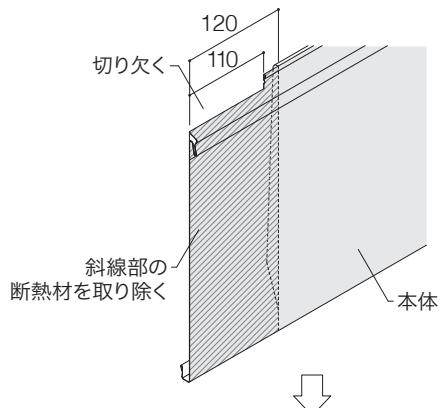
④改修用ケラバ水切100を取り付ける

- 改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リブを目安にしてください。

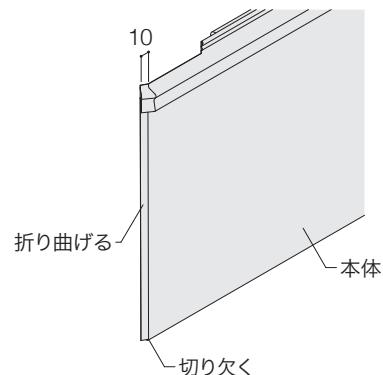
B. ケラバ部 B-2. 改修用ケラバ水切 100 ●改修用ケラバ水切 100 のみで納める場合

⑤本体を加工する

- ・切断部から断熱材を120mm程度取り除き、くぎ打ち部を110mm程度切り欠いてください。

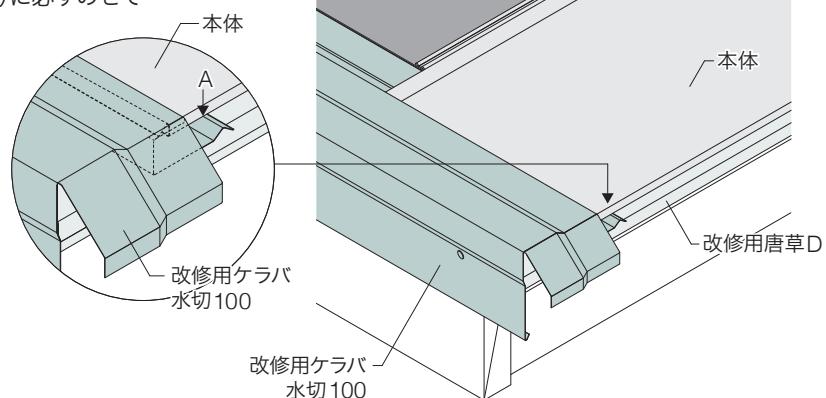


- ・本体の端部は10mm程度折り曲げてください。



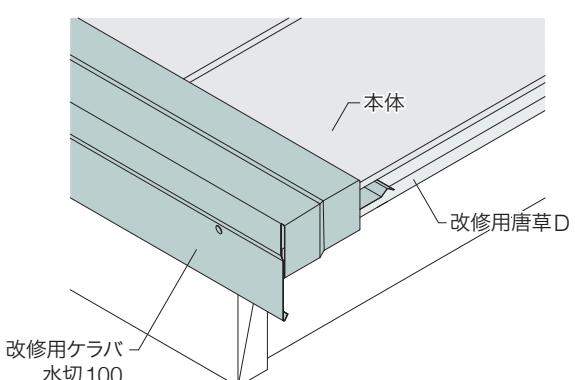
⑥本体を取り付ける

- ・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛け、改修用ケラバ水切100のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑦改修用ケラバ水切100の軒先側端部を折り曲げる

- ・ケラバ水切100エンド(左)/(右)を併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します(P35参照)。



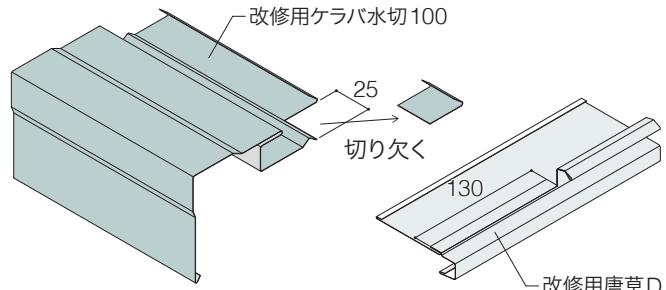
単位：mm

B. ケラバ部 B-2. 改修用ケラバ水切 100 ●ケラバ水切100エンド(左)/(右)の取り付け方

(施工手順) 改修用唐草Dを使用した場合の図です。

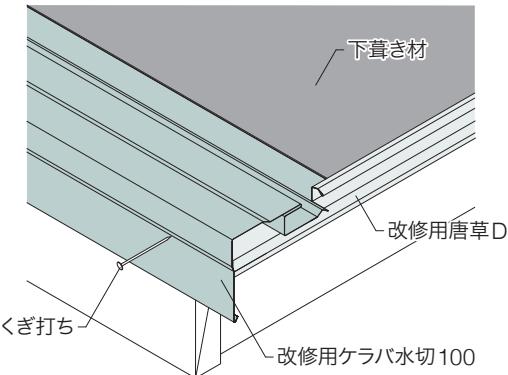
①部材の加工

- 改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、右図のように加工してください。



②改修用唐草Dを取り付ける

- 既存ケラバ水切の軒先部を事前に切断してください。
- 下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください(P19参照)。



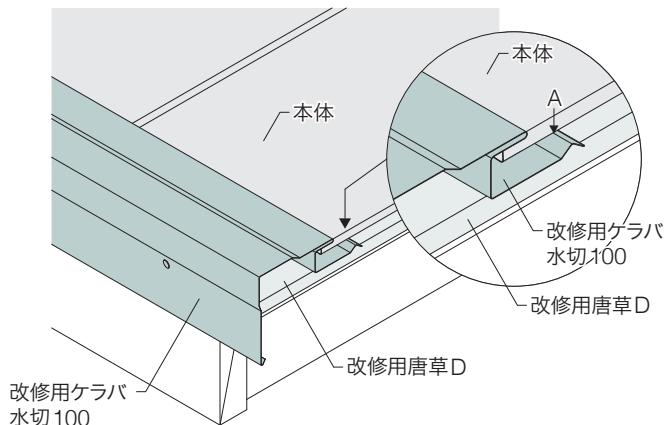
③下葺き材を施工する

④改修用ケラバ水切100を取り付ける

- 改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リブ

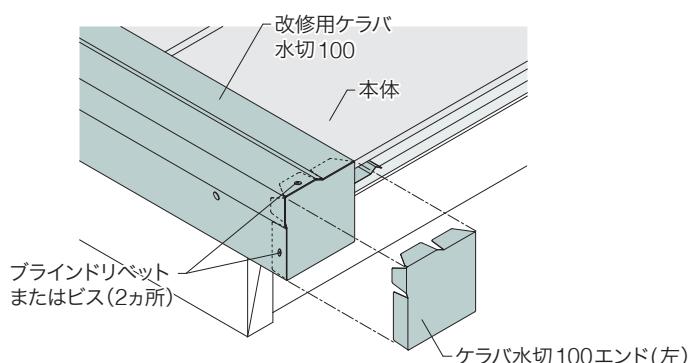
⑤本体を加工し、取り付ける

- 本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
 - 改修用ケラバ水切100とケラバ面戸を併用する場合：P32
 - 改修用ケラバ水切100のみで納める場合：P34
- 本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛け、改修用ケラバ水切100のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切100エンドを取り付ける

- ケラバ水切100エンドは、左右で形状が異なります。取り付ける前に左右を確認してください。
- ケラバ水切100エンドを改修用ケラバ水切100に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2カ所留め付けてください。
- ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。



B. ケラバ部 B-2. 改修用ケラバ水切 100

●改修用ケラバ水切 100 のつなぎ方

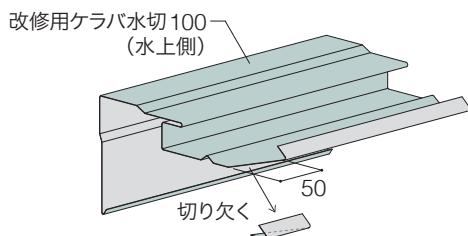
改修用ケラバ水切 100 のつなぎ方

- ・ケラバ水切同士をつなぐ際は、50mm程度の切り欠き加工をしてください。

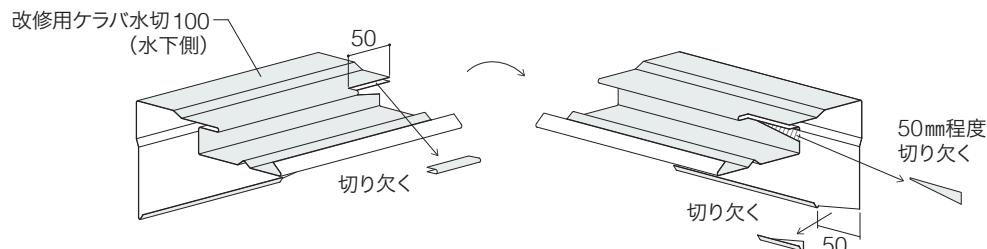
切り欠き加工

図は左上がりの場合です。右上がりの場合も、水上側、水下側それぞれ同様に加工してください。

水上側

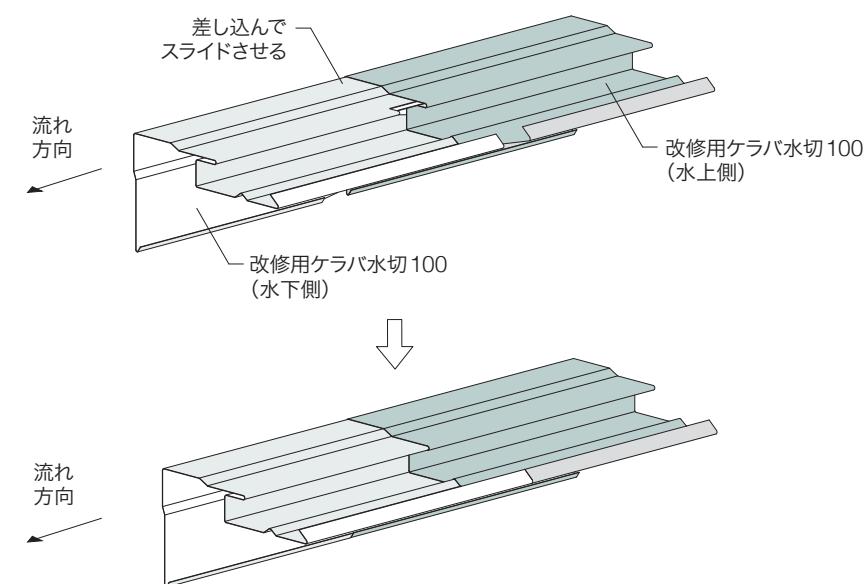


水下側



つなぎ方

水下側の改修用ケラバ水切 100 を下に施工してください。

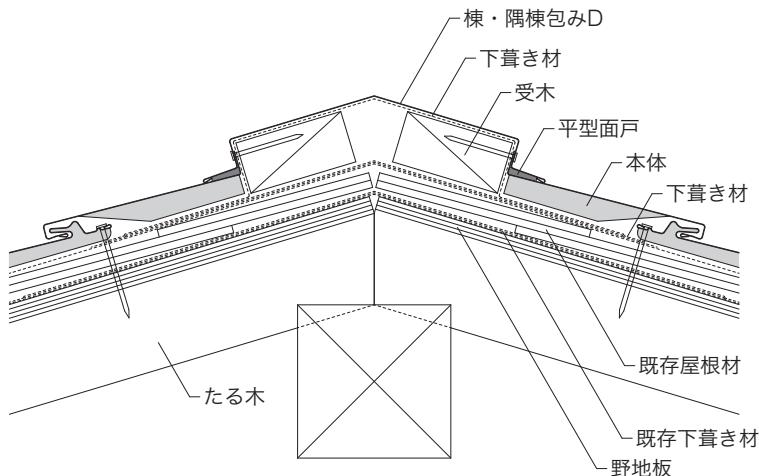


単位:mm

C. 棟部

C-1. 棟・隅棟包みD

納まり図



- ・棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150mm以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

【受木について】

- ・屋根の勾配に合わせ、高さ36~45mm、幅60~80mmで選定してください。
- ・幅30~40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- ・隅棟にC型捨板を使用する場合は、受木のサイズを合わせてください。

施工手順

●端部の納め方(1) 棟・隅棟包みDを加工して納める場合

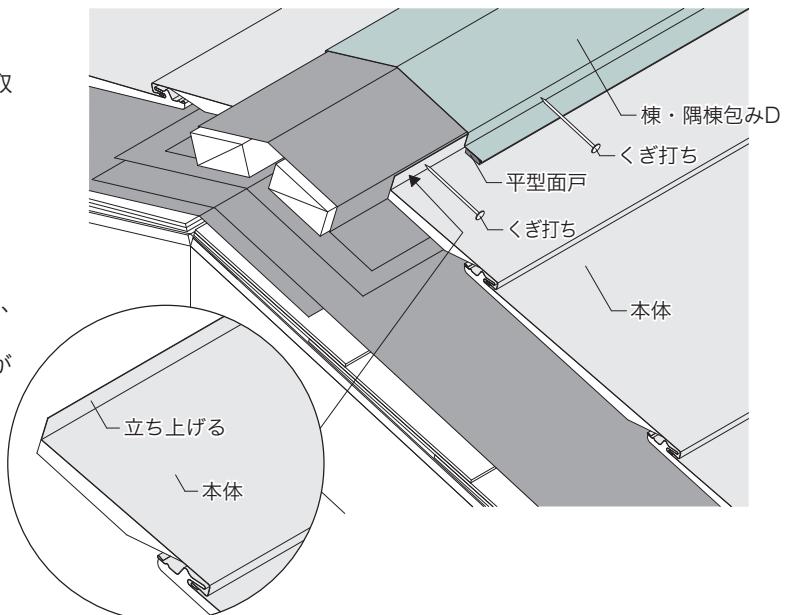
①本体を加工し、取り付ける

- ・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。

②平型面戸を貼り付ける

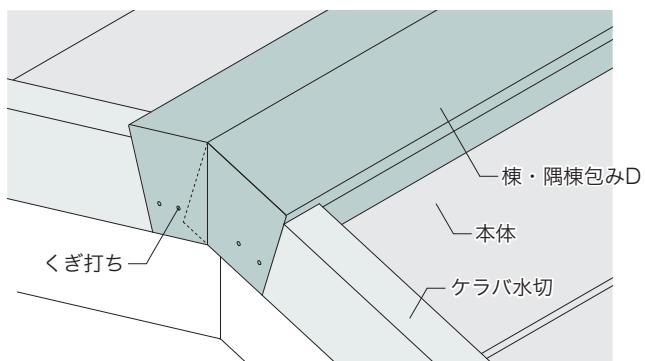
③棟・隅棟包みDを取り付ける

- ・受木の勾配に合わせて棟・隅棟包みDを取り付け、くぎ打ちしてください。
- ・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。



④棟・隅棟包みDのケラバ側を加工する

- ・棟・隅棟包みDを右図のように加工して納め、くぎ打ちしてください。
- ・棟巴を併用すると加工が不要になり、施工性が向上します。(P38参照)



C. 棟部

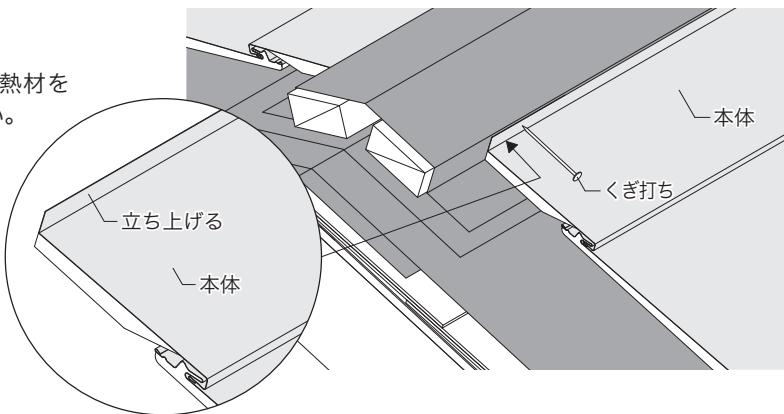
C-1. 棟・隅棟包みD

●端部の納め方(2) 棟巴を併用する場合

「スーパーガルテクト」、「スーパーガルテクトC」のみの仕様です

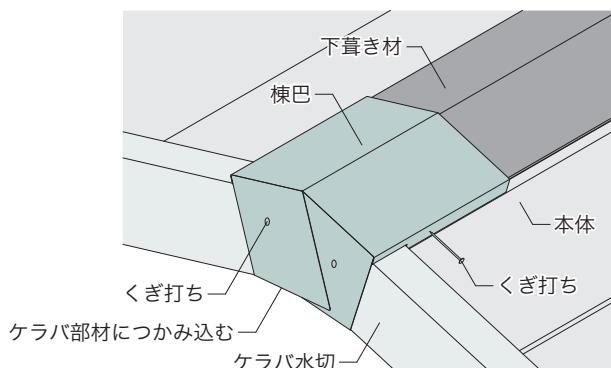
①本体を加工し、取り付ける

- ・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。



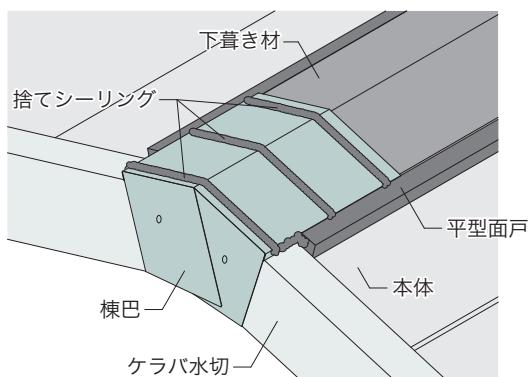
②棟巴を加工し、取り付ける

- ・ケラバ部材の幅や勾配に合わせて切り欠いてください。
- ・棟巴を取り付けた後、ケラバ部材につかみ込んでください。



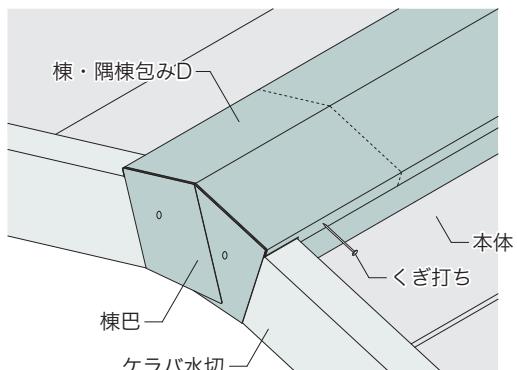
③平型面戸を貼り付け、捨てシーリングを施工する

- ・棟巴と棟・隅棟包みDが重なる部分に捨てシーリングを施工してください。



④棟・隅棟包みDを加工し、取り付ける

- ・棟・隅棟包みDを施工し、くぎ打ちしてください。
- ・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。

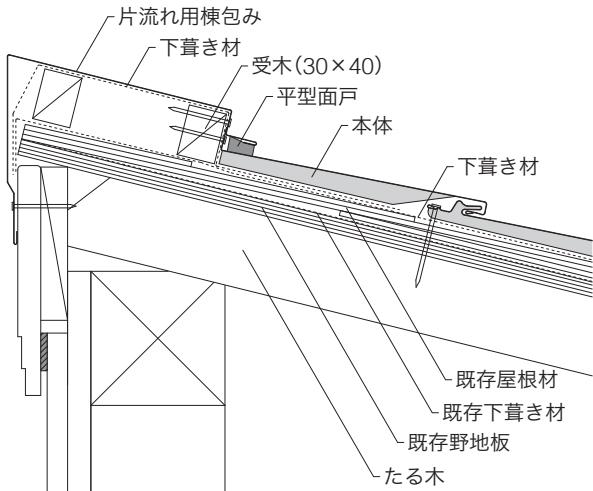


C. 棟部

C-2. 片流れ用棟包み

(納まり図)

2.5寸~6寸勾配に対応



施工手順

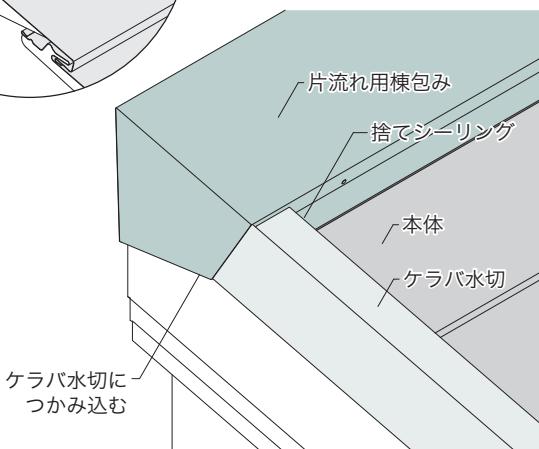
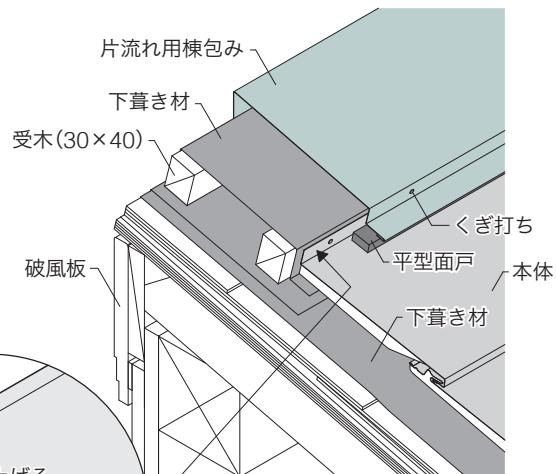
①本体を加工し、取り付ける

- ・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。

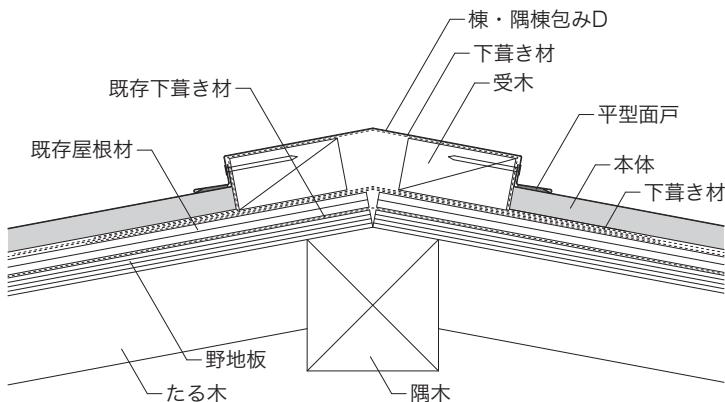
②平型面戸を貼り付ける

③片流れ用棟包みを取り付ける

- ・受木の勾配に合わせて片流れ用棟包みを取り付け、くぎ打ちしてください。
- ・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。



- ・片流れ用棟包みの端部は、右図のように加工し、ケラバ部材につかみ込んでください。
- ・片流れ用棟包みを取り付ける際に、本体、ケラバ部材との取り合い部に捨てシーリングを施工してください。

D. 隅棟部**D-1. 棟・隅棟包みD****(納まり図)**

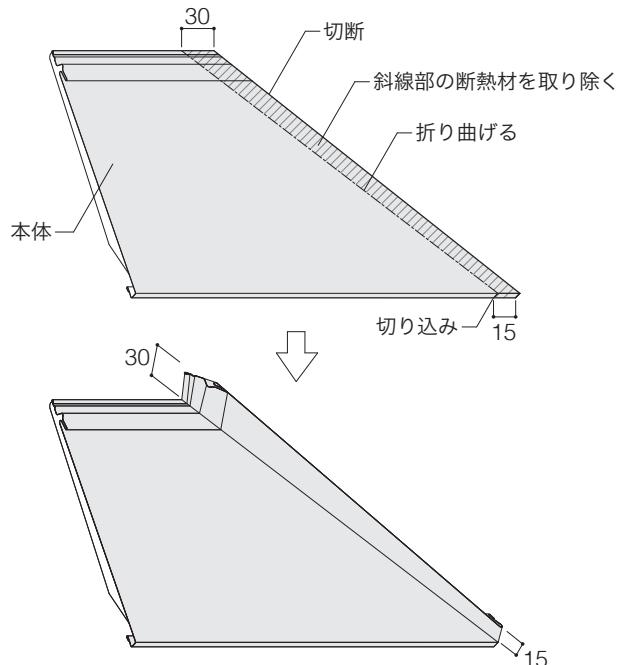
・棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150mm以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

【受木について】

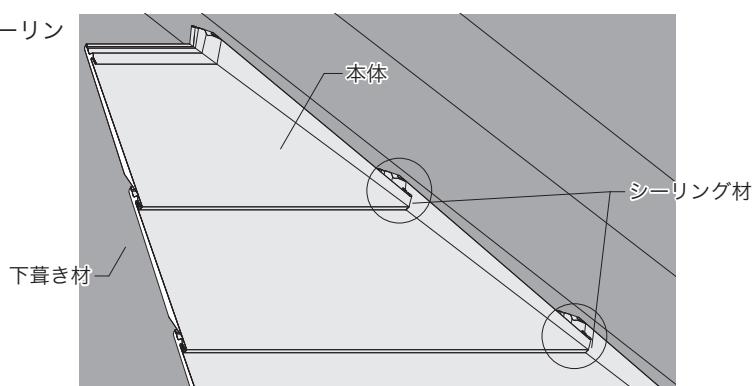
- ・高さ36~45mm、幅60~80mmで選定してください。
- ・幅30~40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

(施工手順)**●本体の加工**

- ・勾配に合わせて本体を曲げる位置を決め切断してください。
- ・カッターとスクレーパーを使用し、右図の斜線部の断熱材を取り除いてください。
- ・右図のようにかん合部に切り込みを入れ、立ち上げてください。



- ・切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。



▶▶ 剣先を使用して納める場合：P41へ
剣先120を使用して納める場合：P42へ

単位：mm

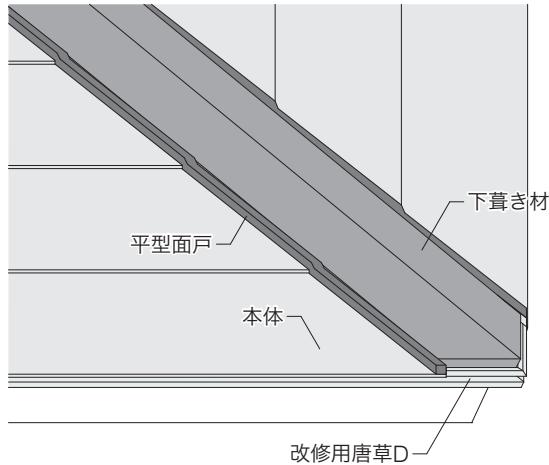
D. 隅棟部 D-1. 棟・隅棟包みD

●端部の納め方(1) 剣先で納める場合

2.5寸～4.5寸勾配に対応

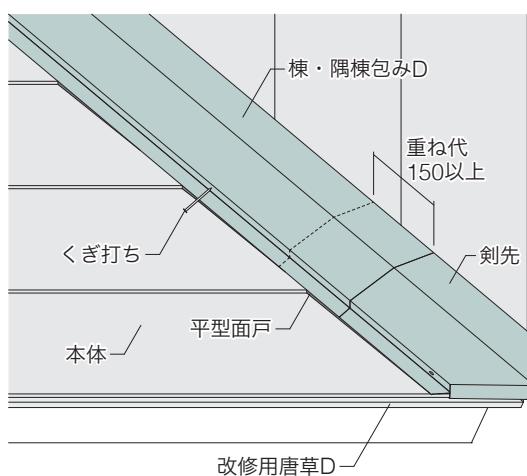
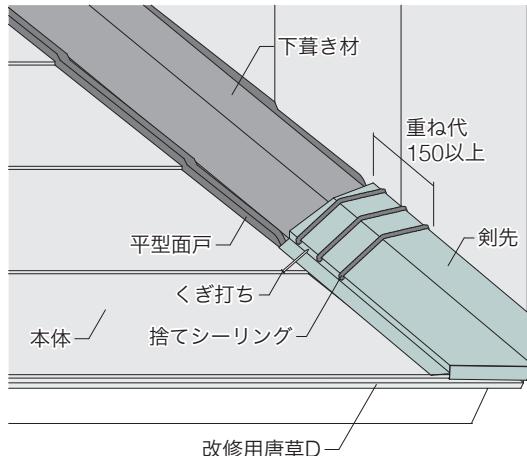
図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

①平型面戸を本体に貼り付ける



②剣先と棟・隅棟包みDを取り付ける

- ・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
- ・剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。



D. 隅棟部

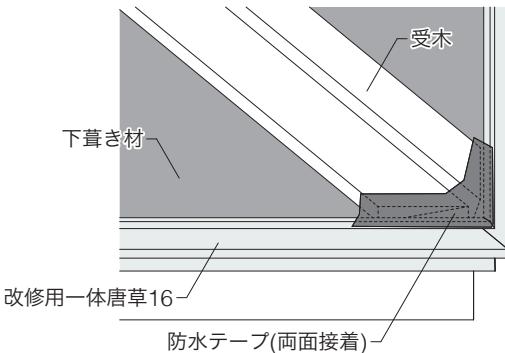
D-1. 棟・隅棟包みD

●端部の納め方(2) 剣先120で納める場合

図は、改修用一体唐草16を使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

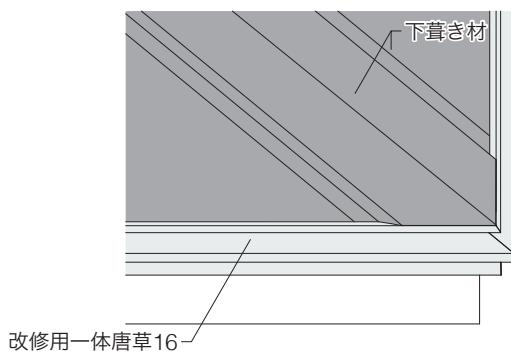
①防水テープを貼り付ける

- 改修用一体唐草16と受木に防水テープ(両面)を施工してください。



②受木に下葺き材を施工する

- 改修用一体唐草16と受木に施工した防水テープ(両面接着)と下葺き材を密着させてください。



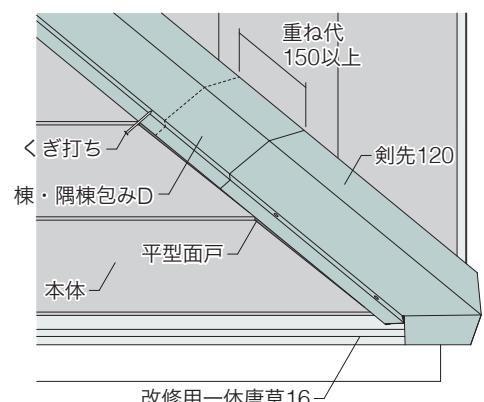
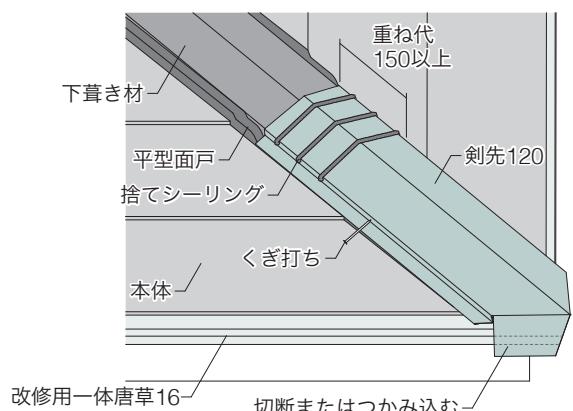
③本体を取り付ける

- 本体の加工と施工方法は、P40～41と併せて確認してください。

④平型面戸を本体に貼り付ける

⑤剣先120と棟・隅棟包みDを取り付ける

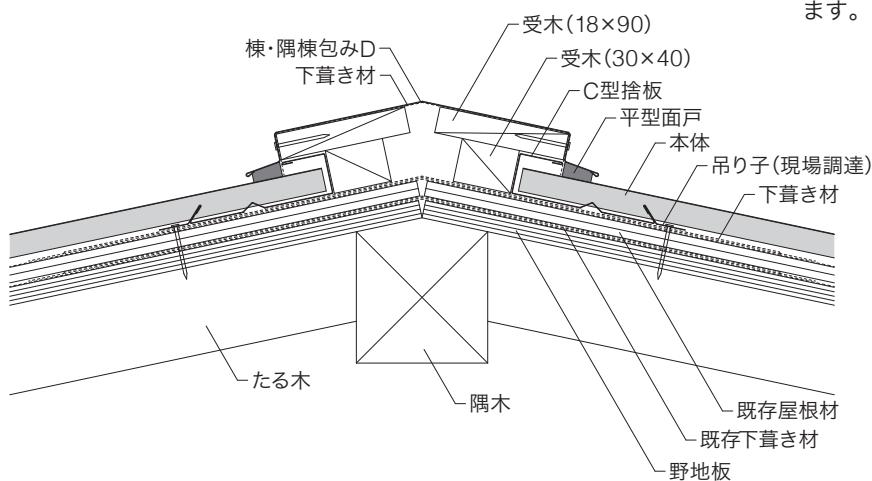
- 平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
- 剣先120と棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。
- 剣先120の先端は、改修用一体唐草16のラインに合わせて切断またはつかみ込んでください。



単位：mm

D. 隅棟部 D-2. 棟・隅棟包みD+C型捨板

(納まり図)



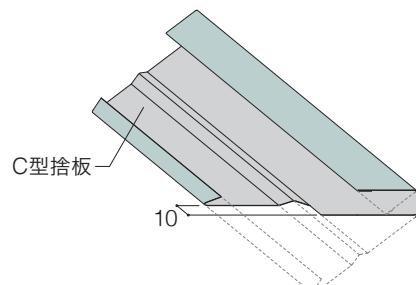
- ・C型捨板を施工することで、本体の立ち上げ加工を省くことができ、施工性と止水性が向上します。

(施工手順)

図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

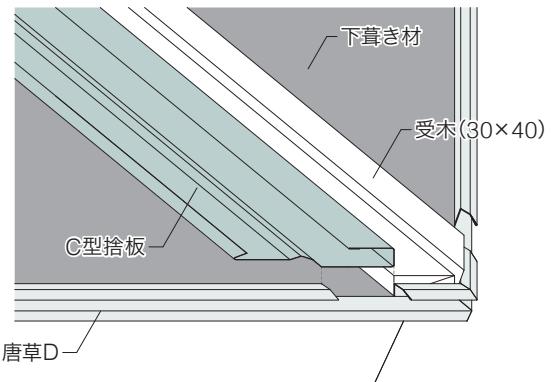
①C型捨板の加工

- ・勾配に合わせてC型捨板を切断し、右図のように10mm程度切り欠いてください。



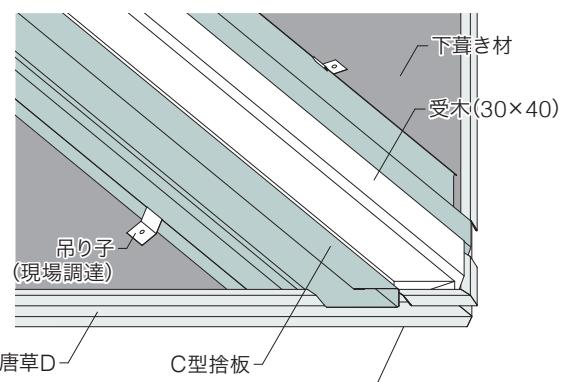
②改修用唐草Dを切り欠く

- ・C型捨板の切り欠き部分に合わせ、改修用唐草Dを切り欠いてください。



③C型捨板を取り付ける

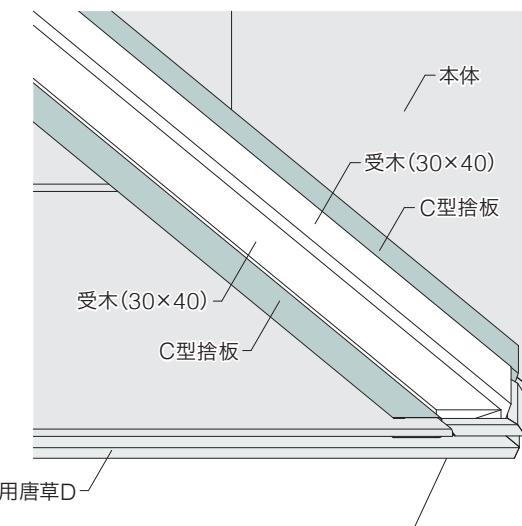
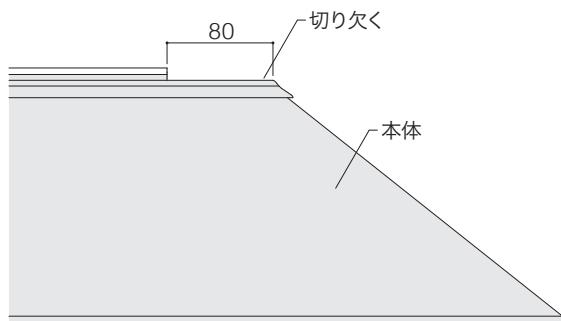
- ・改修用唐草Dの切り欠いた部分にC型捨板を合わせ10mm程度改修用唐草Dの上に出してください。
- ・C型捨板は、吊り子(現場調達)を使用し留め付けてください。



D. 隅棟部 D-2. 棟・隅棟包みD+C型捨板

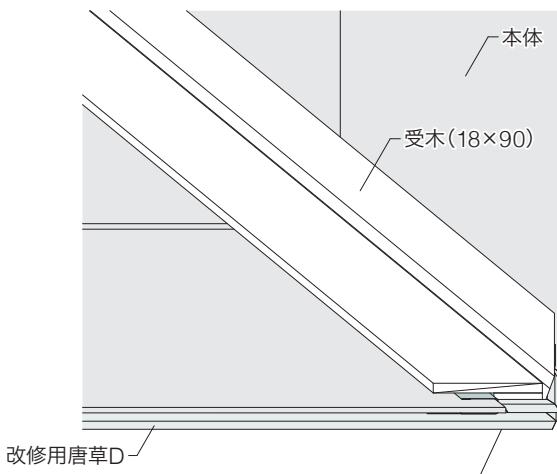
④本体を加工して取り付ける

- ・本体は勾配に合わせて切削し、くぎ打ち部を80mm程度切り欠いてください。
- ・本体は、C型捨板に差し込んで施工してください。



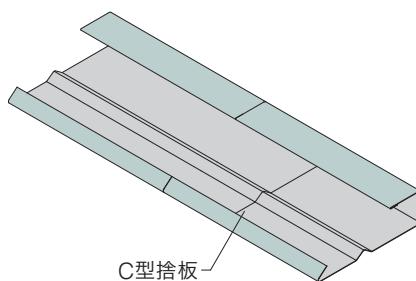
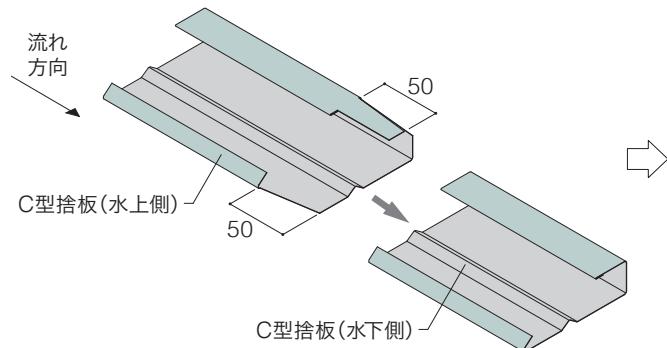
⑤受木を取り付ける

- ・本体を施工した後、受木(18×90)を軒先に合わせて施工してください。



▶▶ 剣先を使用して納める場合：P45へ
剣先120を使用して納める場合：P46へ

C型捨板のつなぎ方



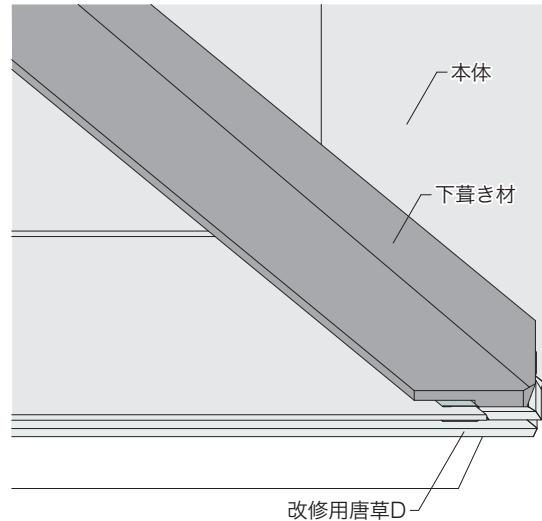
単位：mm

D. 隅棟部 D-2. 棟・隅棟包みD+C型捨板

●端部の納め方(1) 剣先で納める場合

2.5寸～4.5寸勾配に対応

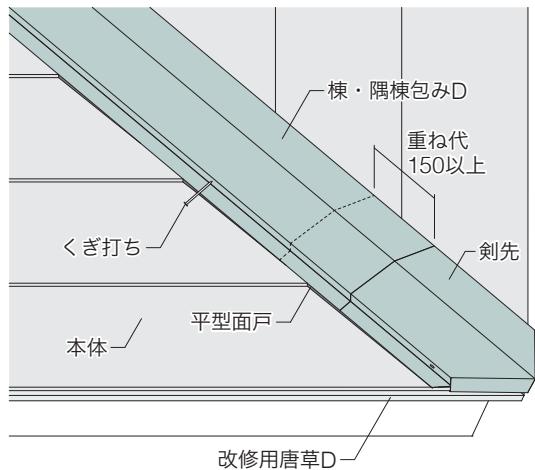
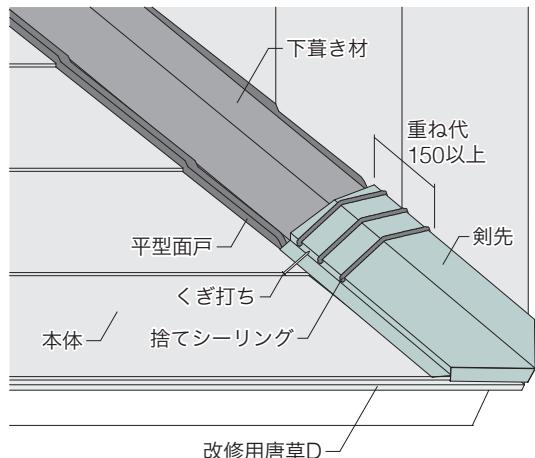
⑥受木に下葺き材を施工する



⑦平型面戸を本体に貼り付ける

⑧剣先と棟・隅棟包みDを取り付ける

- ・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
- ・剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。



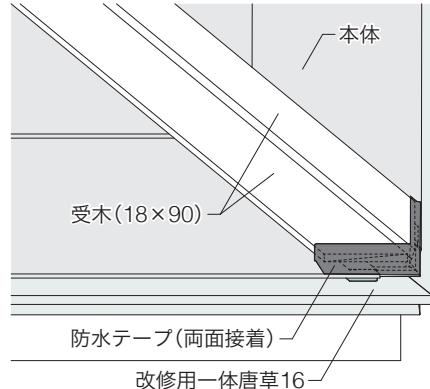
D. 隅棟部 D-2. 棟・隅棟包みD+C型捨板

●端部の納め方(2) 剣先120で納める場合

図は、改修用一体唐草16を使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

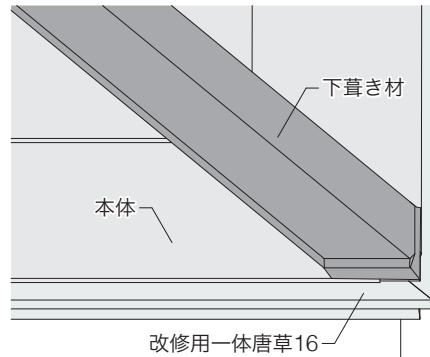
⑥防水テープを貼り付ける

- 改修用一体唐草16と受木に防水テープ(両面)を施工してください。



⑦受木に下葺き材を施工する

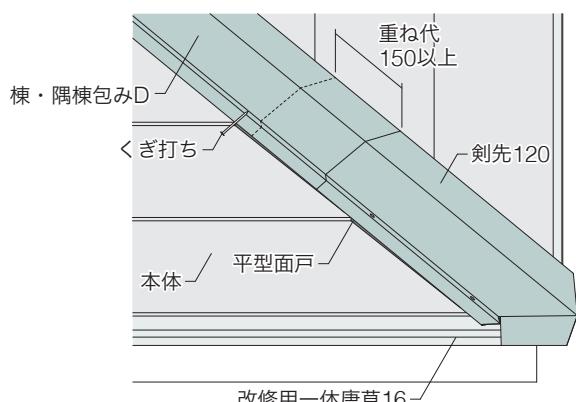
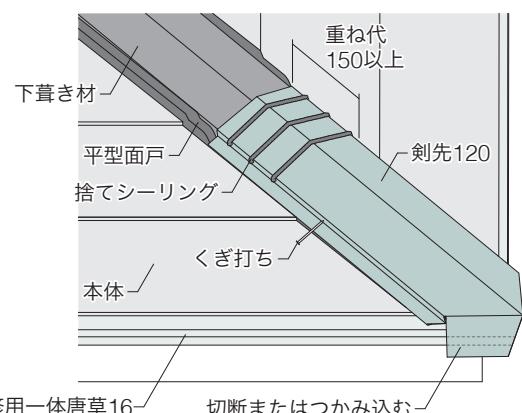
- 改修用一体唐草16と受木に施工した防水テープ(両面接着)と下葺き材を密着させてください。



⑧平型面戸を本体に貼り付ける

⑨剣先120と棟・隅棟包みDを取り付ける

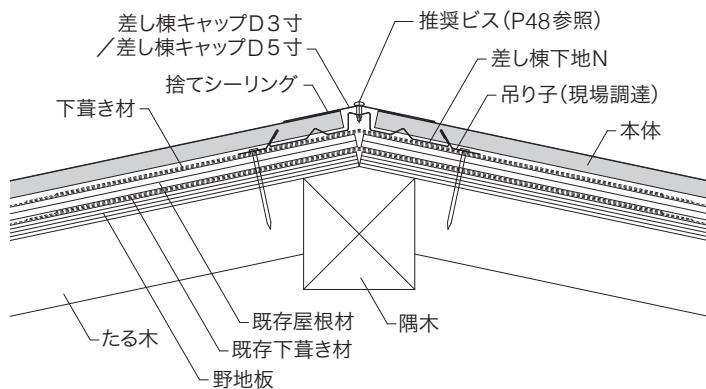
- 平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
- 剣先120と棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。
- 剣先120の先端は、改修用一体唐草16のラインに合わせて切断またはつかみ込んでください。



単位:mm

D. 隅棟部 D-3. 差し棟キャップD3寸／差し棟キャップD5寸

(納まり図)

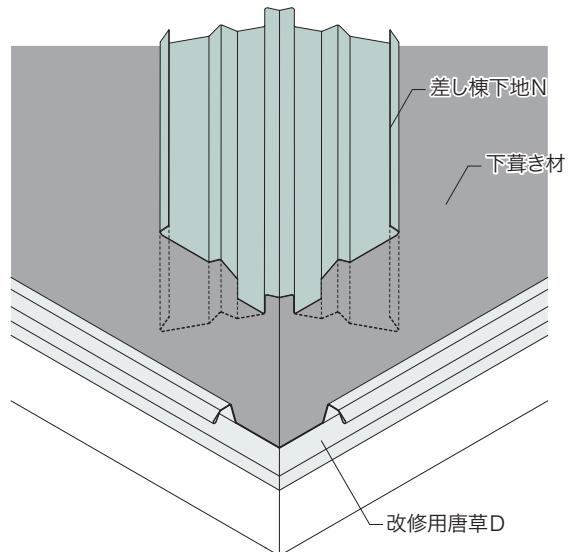


差し棟キャップD3寸:2.5寸～4.5寸勾配に対応
差し棟キャップD5寸:5寸～6寸勾配に対応

(施工手順) 図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

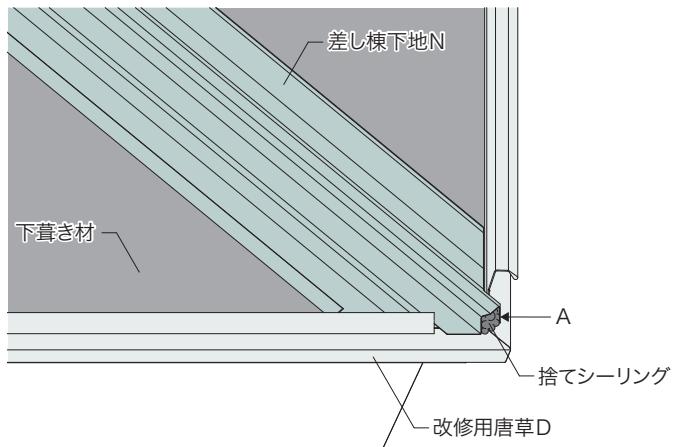
①改修用唐草Dと差し棟下地Nを加工して取り付ける

- 右図のように、改修用唐草Dと差し棟下地Nを切り欠いてください。
- 差し棟下地Nの切り欠きは、差し棟キャップからはみ出さないように現場で合わせて切り欠いてください。



②捨てシーリングを施工する

- 吹き上げによる雨水の浸入を防止するため、Aの部分（右図参照）に捨てシーリングを施工してください。

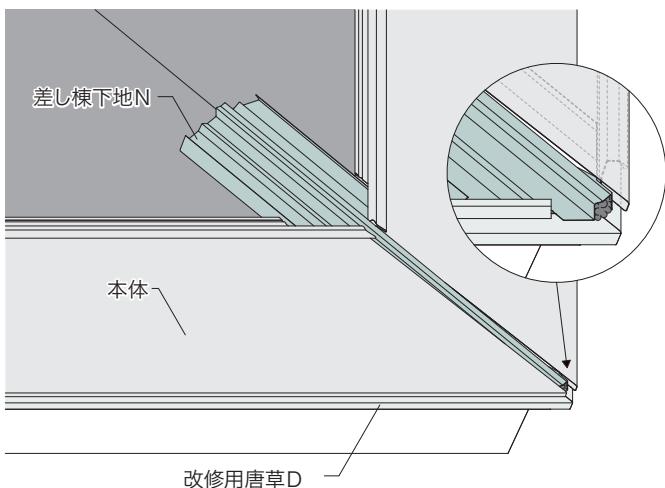
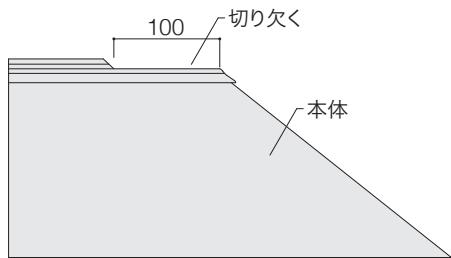


D. 隅棟部

D-3. 差し棟キャップD3寸/差し棟キャップD5寸

③本体を加工し、取り付ける

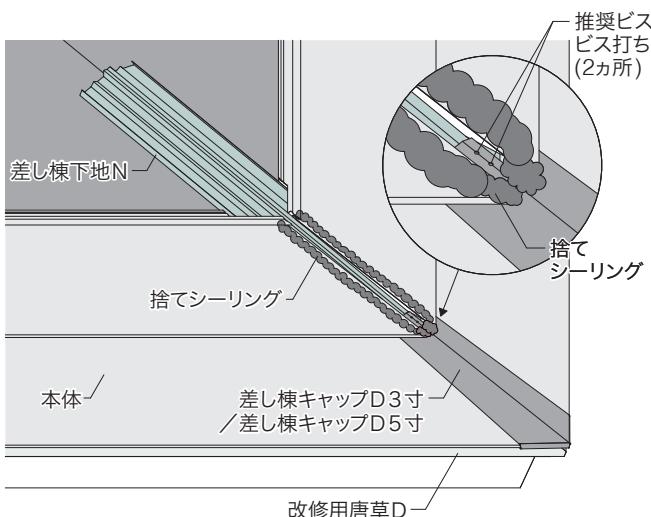
- 勾配に合わせて本体を切断し、くぎ打ち部を100mm程度切り欠いてください。



④差し棟キャップを取り付ける

- 右図のように、捨てシーリングを施工してください。
- 差し棟キャップは、本体の通りを合わせて取り付けてください。
- 差し棟キャップを推奨ビスで差し棟下地Nに留め付けてください。ビス頭には、捨てシーリングを施工してください。

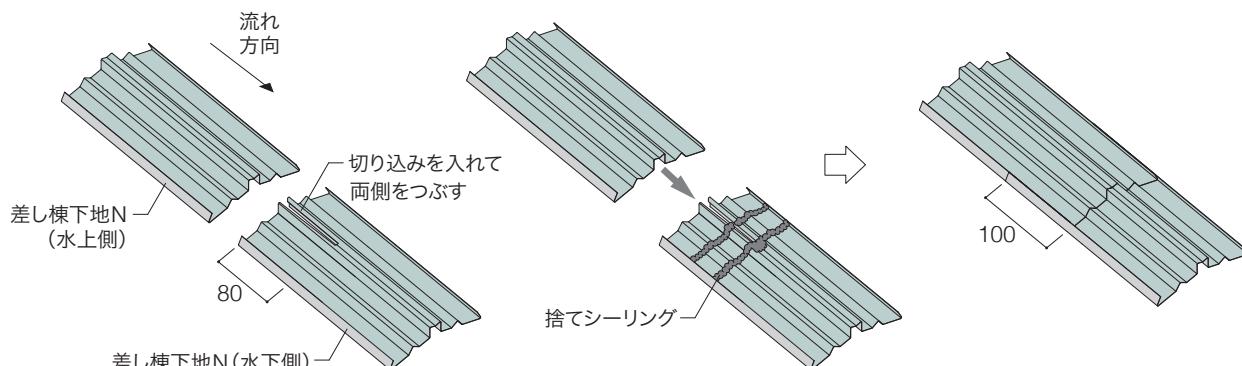
⚠ ビスの締めすぎ、空回りには十分に注意してください。



推奨ビス

メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング(株)	MBシートテクス 4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
(株)ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス(シンワッシャー)	4×12
	ジャックポイント(ミニジャック)	トラス(シンワッシャー)	4×13
若井産業(株)	ダンバゼロ	シンワッシャー	4×14

差し棟下地Nのつなぎ方

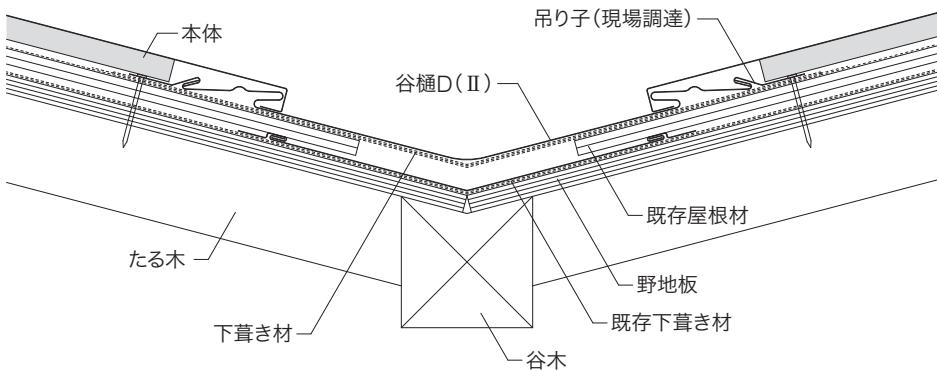


単位:mm

E. 谷部

E-1. 谷樋D(Ⅱ)

納まり図

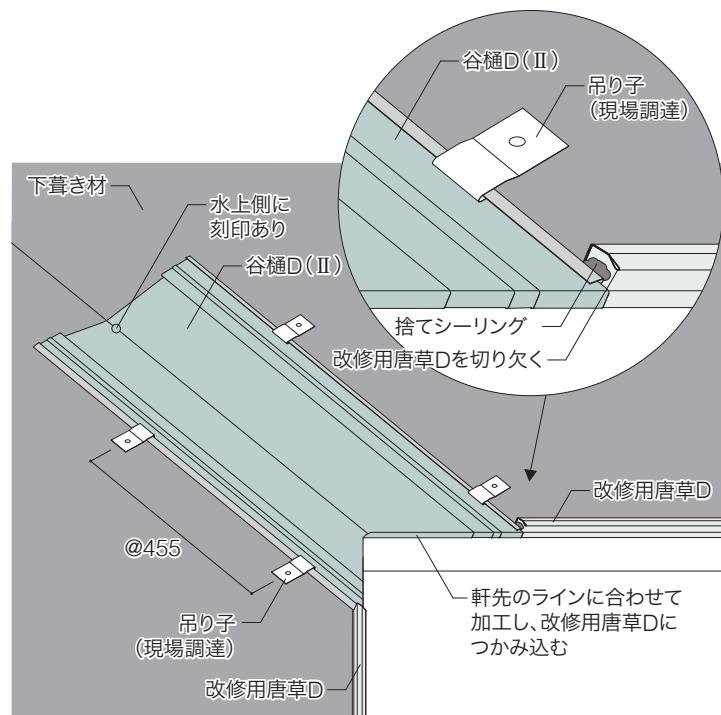


施工手順

図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

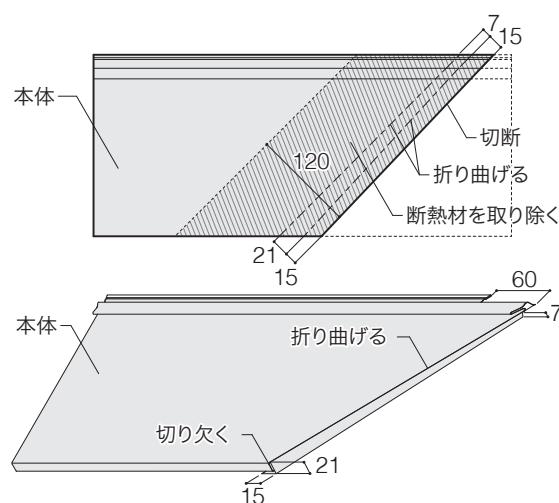
①部材の加工と取り付け

- 改修用唐草Dは、谷樋D(Ⅱ)の幅に合わせて立ち上がり部分を切り欠いてください。
- 谷樋D(Ⅱ)は、軒先のラインに合わせて加工し、唐草部材に沿うようにつかみ込んでください。
- 谷樋D(Ⅱ)は、吊り子を使用し、455mmの間隔で固定してください。
- 改修用唐草Dと谷樋D(Ⅱ)の取り合いには、本体を施工する前に捨てシーリングを施工してください。



②本体を加工する

- 勾配に合わせて本体を切断してください。
- 断熱材は、切断部から120mm程度取り除いてください。
- くぎ打ち部を60mm程度切断してください。かん合部を切り欠き、折り曲げてください。

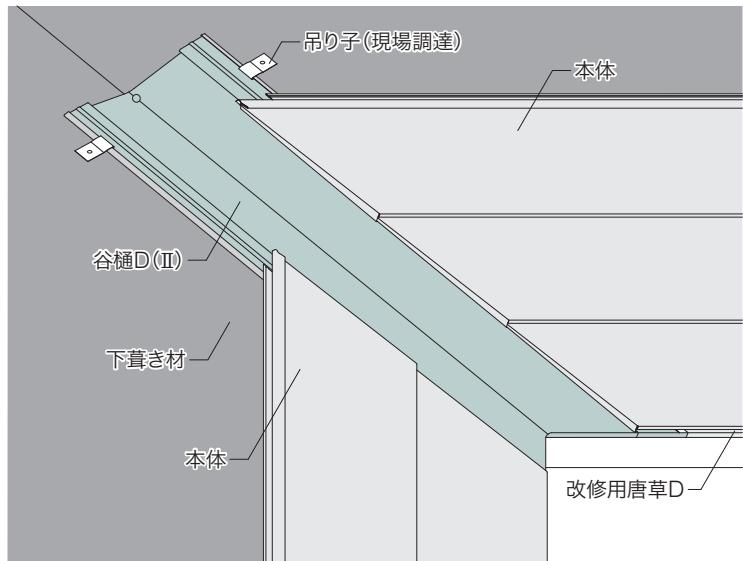


E. 谷部

E-1. 谷樋D(Ⅱ)

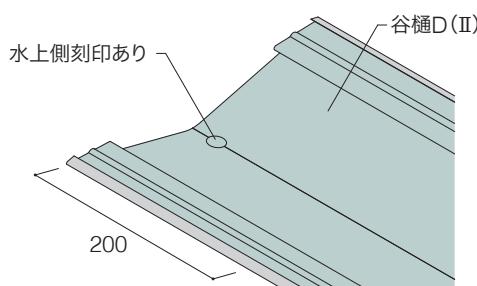
③本体を取り付ける

- ・本体は、谷樋D(Ⅱ)のハゼに引っかけて施工してください。

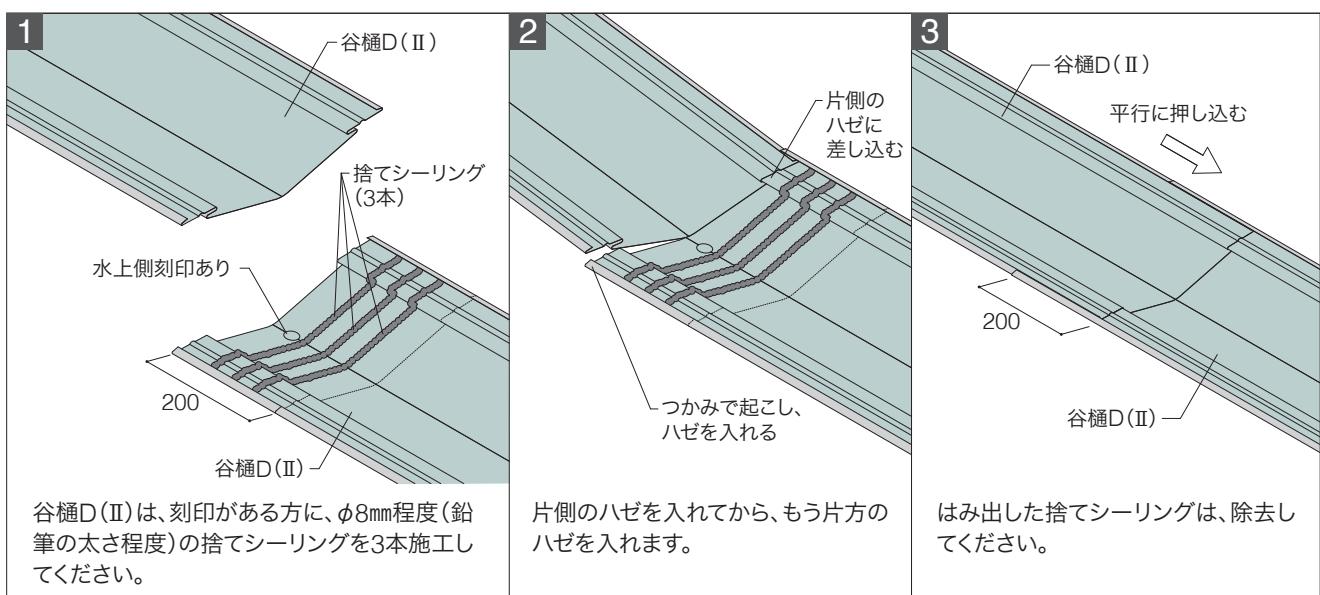
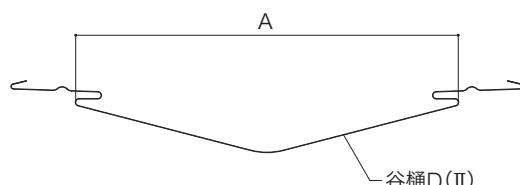


谷樋D(Ⅱ)同士のつなぎ方

- ・谷樋D(Ⅱ)は、刻印がある方を水上側にして施工してください。



- ・谷樋D(Ⅱ)同士をつなぐ際は、必ず刻印がある箇所を下にしてつないでください。刻印がある方は、Aの部分が広がっており、つなぎやすくなっています。

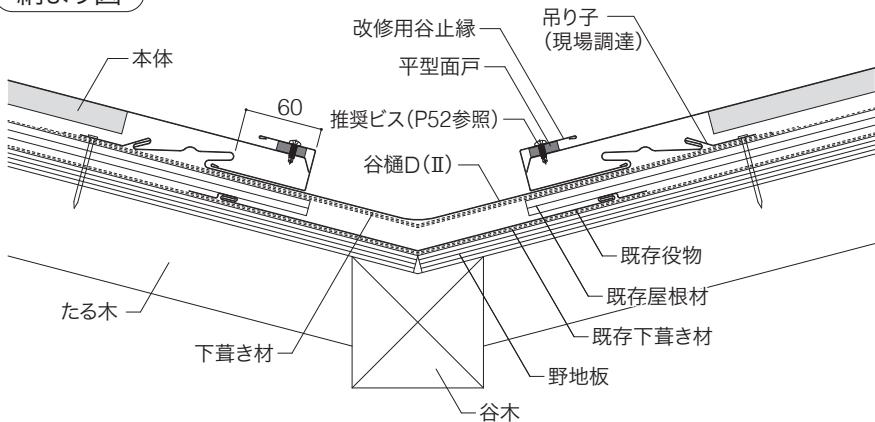


単位:mm

E. 谷部

E-2. 谷樋D(II)+改修用谷止縁

納まり図

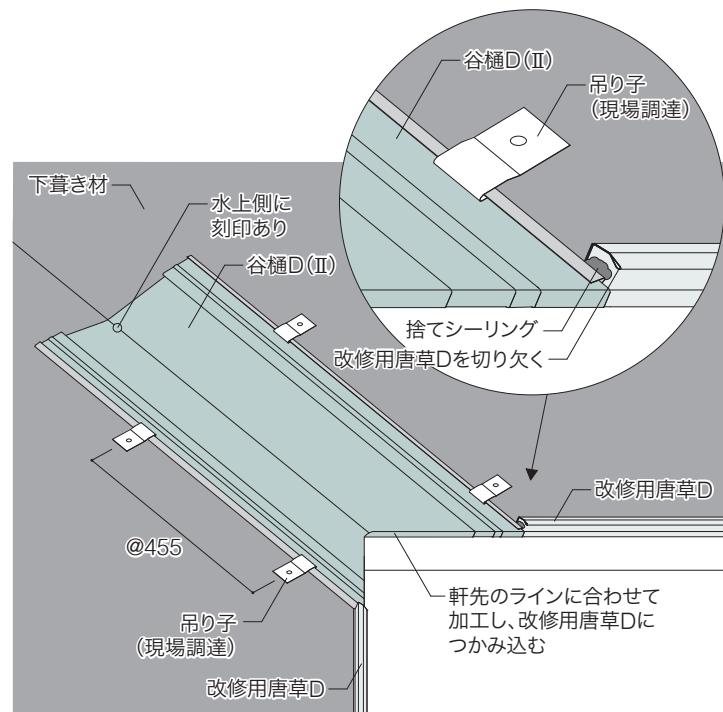


施工手順

図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

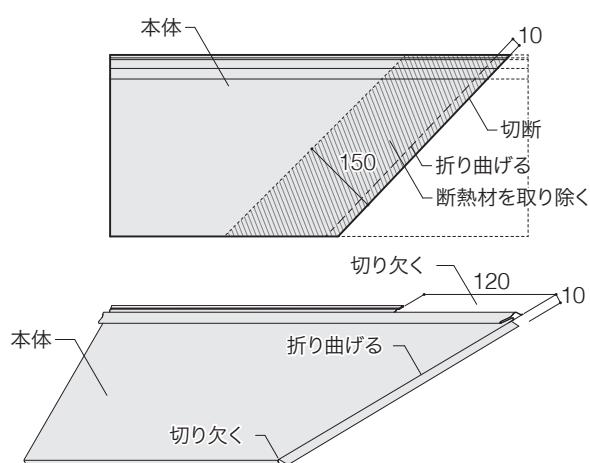
①先付け部材の加工と取り付け

- ・谷樋D(II)の幅に合わせて、改修用唐草Dを加工し、谷樋D(II)を改修用唐草Dにつかみ込んでください。
- ・谷樋D(II)は、吊り子を使用し、455mmの間隔で固定してください。
- ・改修用唐草Dと谷樋D(II)の取り合いには、本体を施工する前に捨てシーリングを施工してください。
- ・谷樋D(II)同士のつなぎ方はP50を参照してください。



②本体を加工する

- ・勾配に合わせて本体を切断してください。
- ・断熱材は、切断部から150mm程度取り除いてください。
- ・くぎ打ち部を120mm程度切断してください。本体のハゼとかん合部を、10mm程度切り欠き、折り曲げてください。

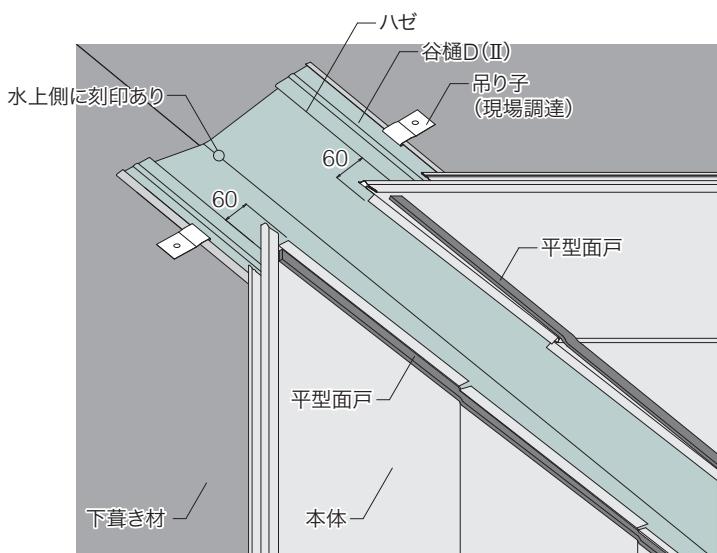


E. 谷部

E-2. 谷樋D(II)+改修用谷止縁

③本体を取り付ける

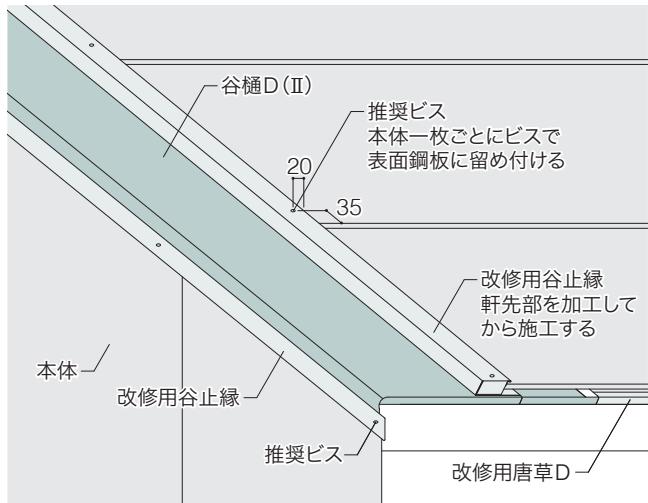
- ・谷樋D(II)のハゼから60mmの位置に本体の端部を合わせて施工してください。
- ・本体の端部には、平型面戸を施工してください。



④改修用谷止縁を取り付ける

- ・改修用谷止縁の軒先部は、あらかじめ本体に合わせて加工してください。
- ・改修用谷止縁は、本体に差し込み、本体一枚ごとに、推奨ビスで表面鋼板に留め付けてください。留め付ける位置は、図を参照し位置を守って留め付けてください。
- ・ビス頭には、シーリング材を施工してください。

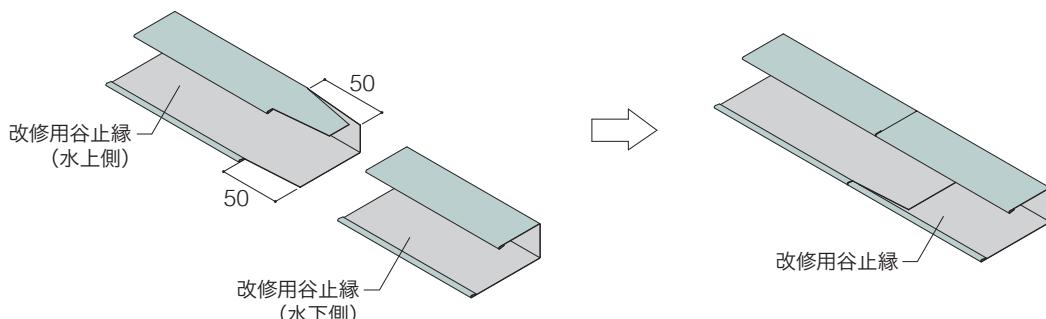
⚠️ ビスの締めすぎ、空回りには十分に注意してください。



推奨ビス

メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング(株)	MBシートテクス 4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
(株)ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス(シンワッシャー)	4×12
	ジャックポイント(ミニジャック)	トラス(シンワッシャー)	4×13
若井産業(株)	ダンバゼロ	シンワッシャー	4×14

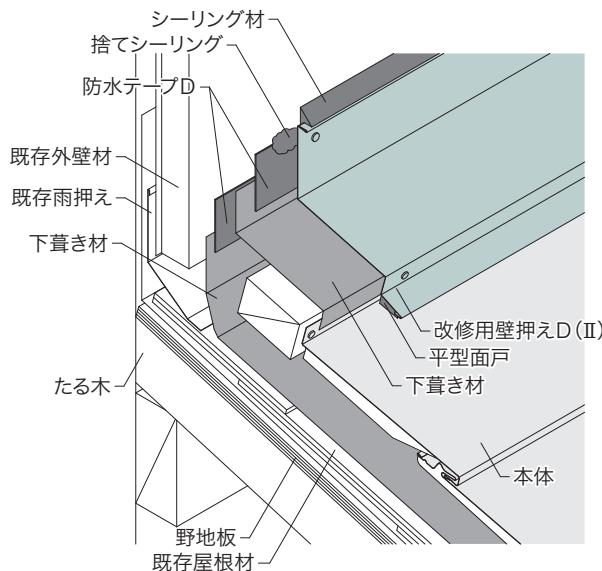
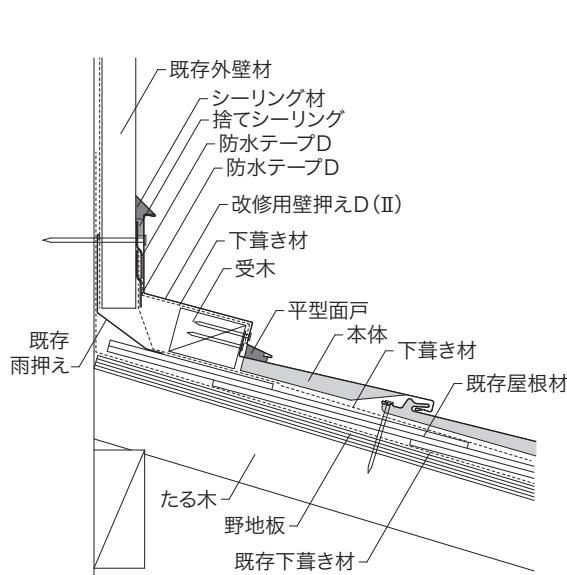
改修用谷止縁のつなぎ方



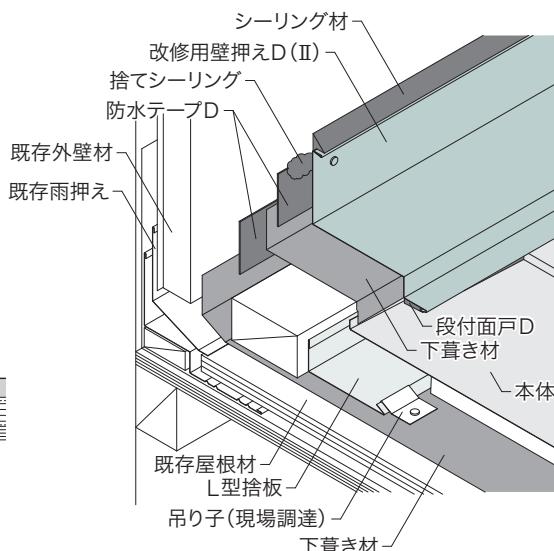
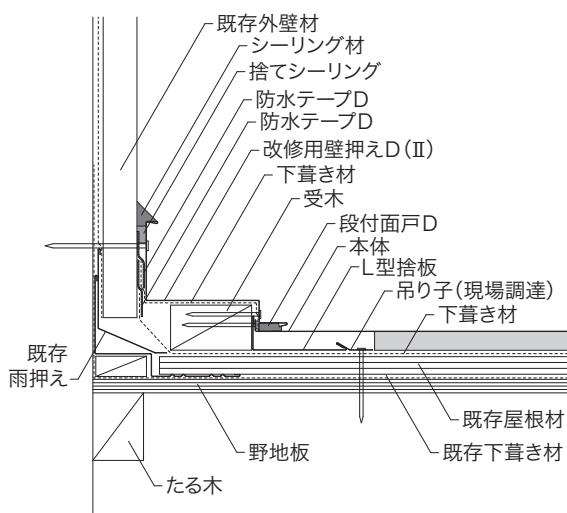
单位：mm

F. 壁との取り合い部 F-1.改修用壁押えD(Ⅱ) ●L型捨板を使用して納める場合

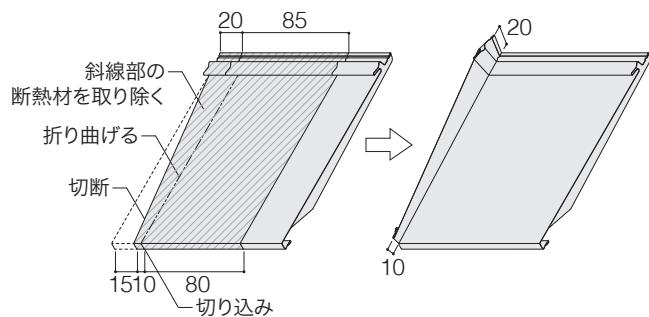
〈流れと垂直な壁との納まり〉



〈流れと平行な壁との納まり〉



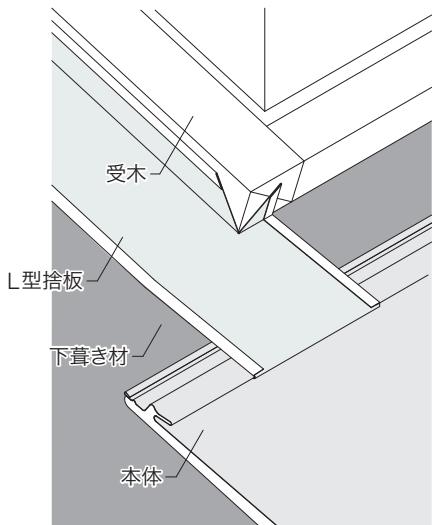
- ・L型捨板は吊り子を使用して留め付けてください。
 - ・本体の端部は、断熱材を取り除き立ち上げてください。
 - ・切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシリング材で防水処理をしてください。
 - ・平型面戸、段付面戸Dは、改修用壁押えD(Ⅱ)と本体の間に入れてください。
 - ・受木の高さは36～45mmとし、幅は60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。



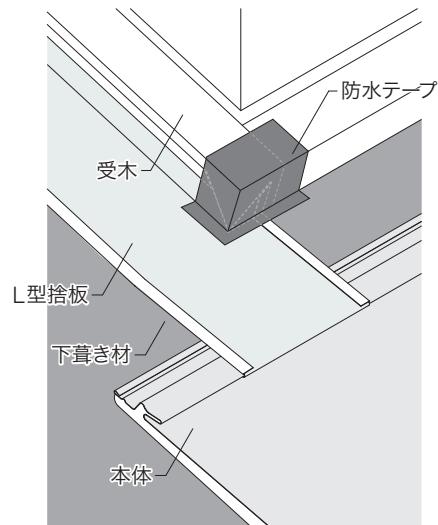
F. 壁との取り合い部 F-1. 改修用壁押えD(II) ●L型捨板を使用して納める場合

〈コーナー部分の壁との納まり〉

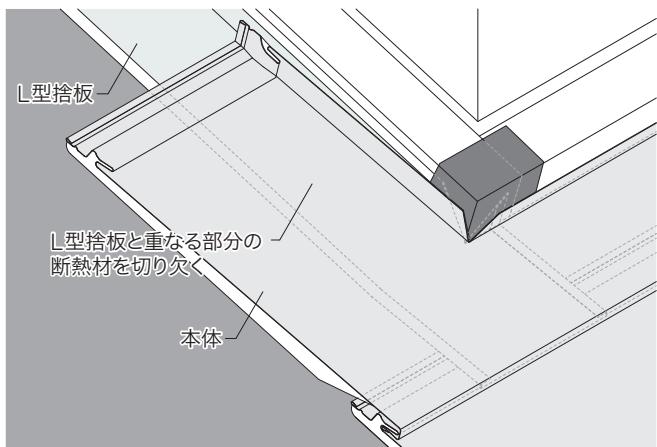
- 1 L型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。



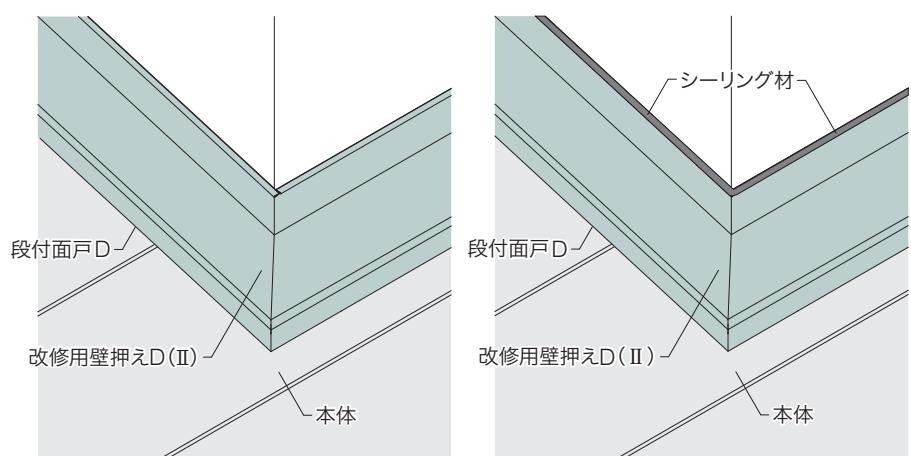
- 2 コーナー部には、防水テープを施工してください。



- 3 コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、L型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。
・本体の端部を立ち上げて施工してください。



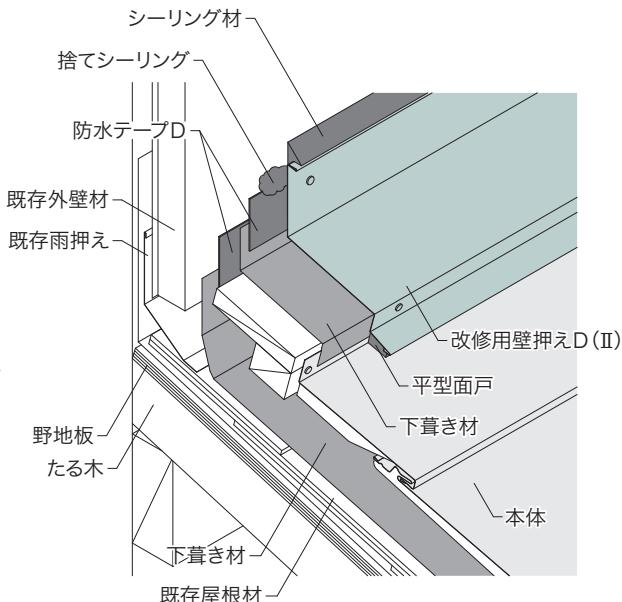
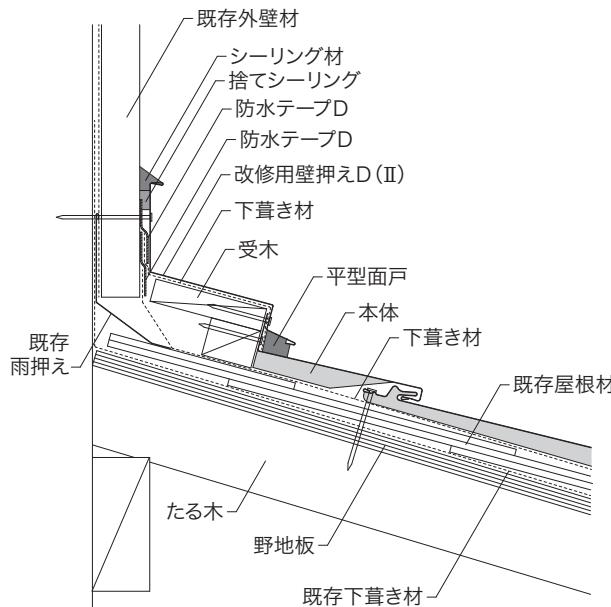
- 4 既存壁と改修用壁押えD(II)の間にはシーリング材を施工してください。



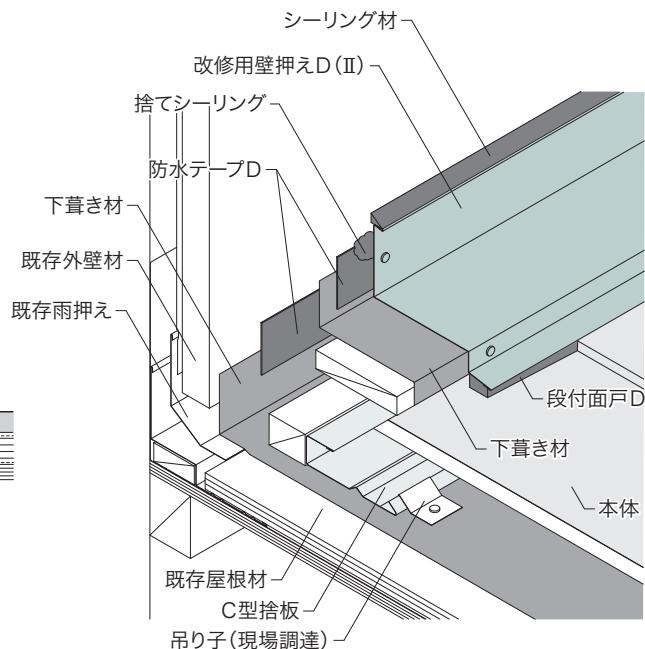
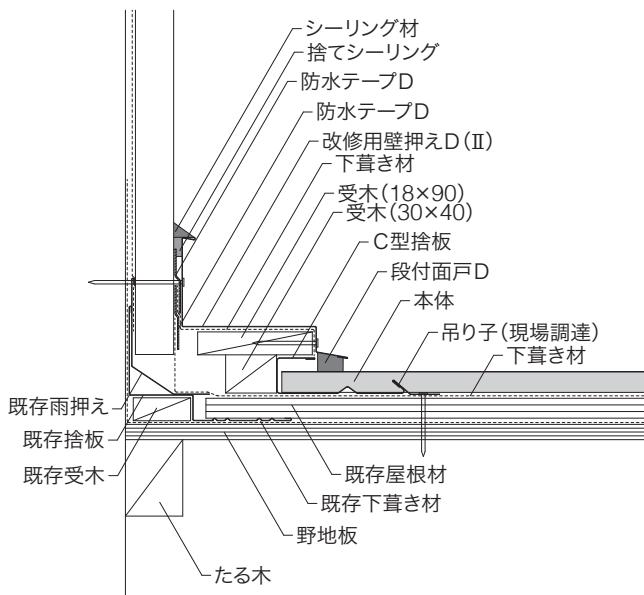
単位:mm

F. 壁との取り合い部 F-1. 改修用壁押えD(II) ●C型捨板を使用して納める場合

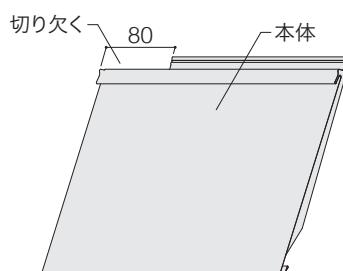
<流れと垂直な壁との納まり>



<流れと平行な壁との納まり>



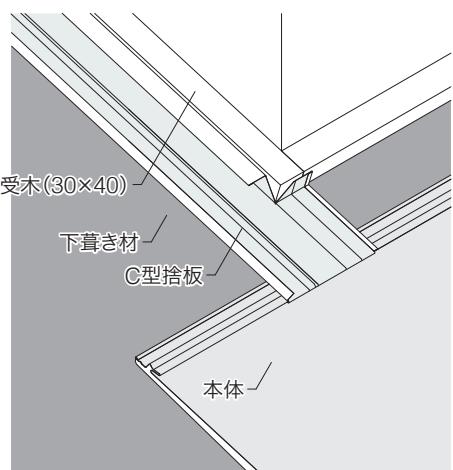
- 既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
- C型捨板は吊り子を使用して留め付けてください。
- 流れと垂直な壁との取り合いがある場合は、受木のサイズを合わせてください。
- 本体の端部のくぎ打ち部は、80mm程度切断してください。
- C型捨板は、壁押えD(II)との組み合せでも施工いただけます。



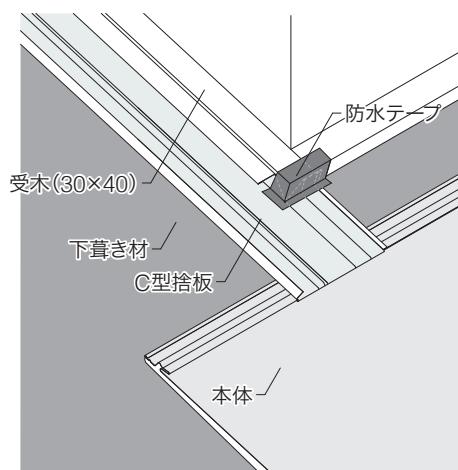
F. 壁との取り合い部 F-1. 改修用壁押えD(II) ●C型捨板を使用して納める場合

〈コーナー部分の壁との納まり〉

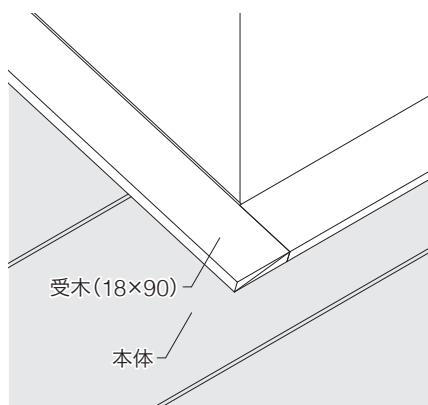
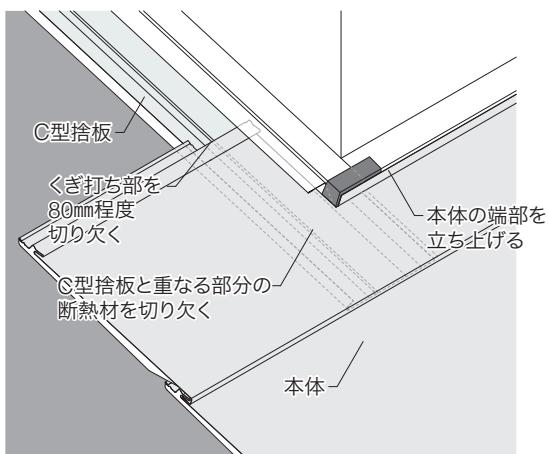
- 1 · C型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。



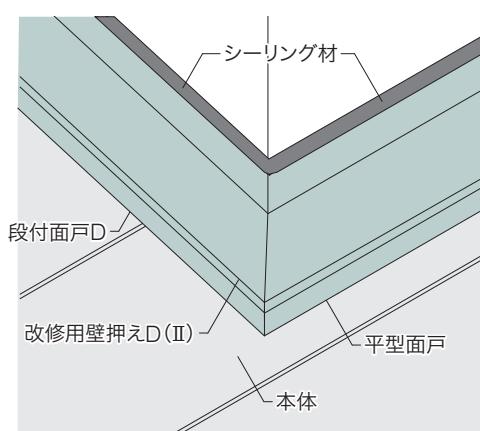
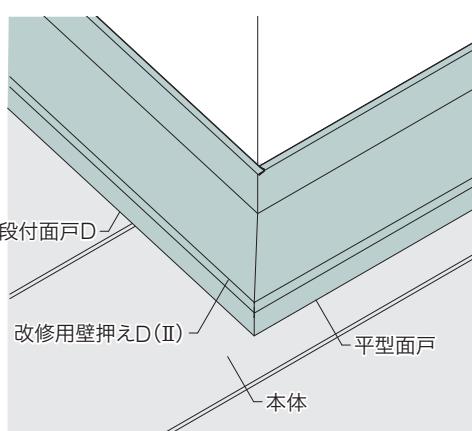
- 2 · コーナー部には、防水テープを施工してください。



- 3 · コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、C型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。



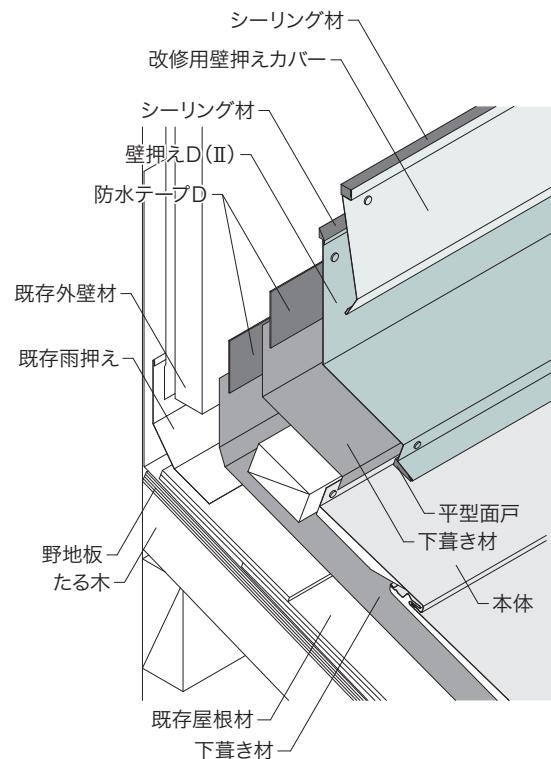
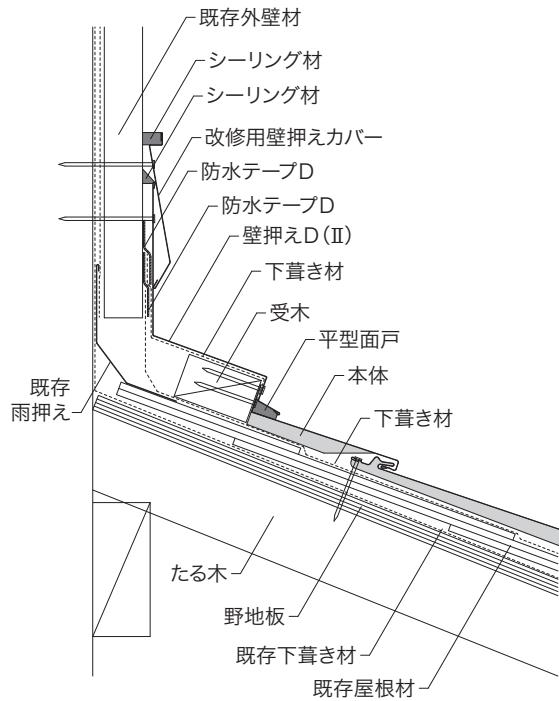
- 4 · 既存壁と改修用壁押えD(II)の間にはシーリング材を施工してください。



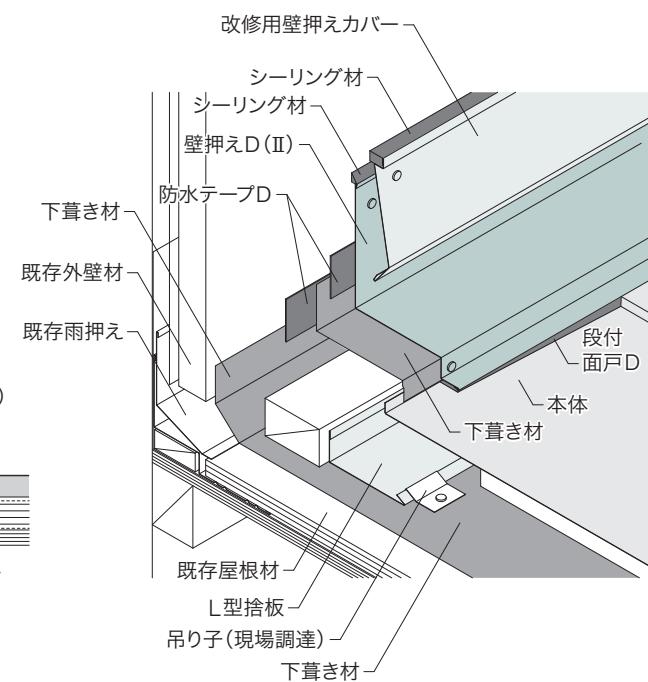
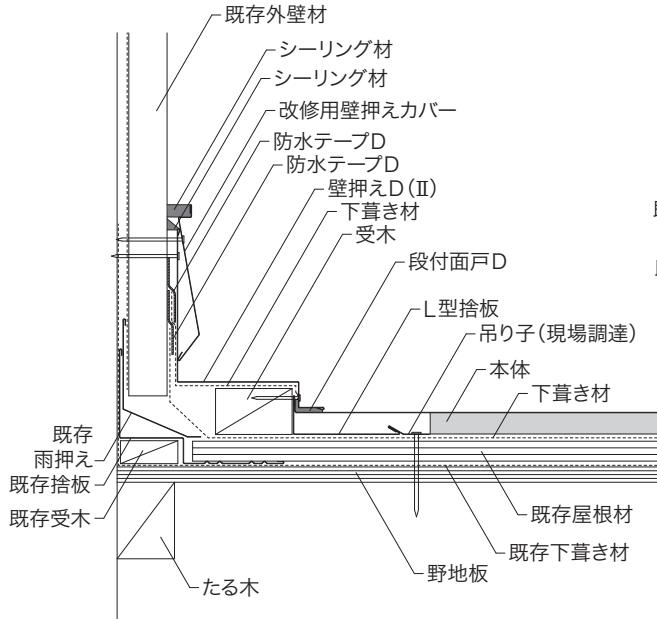
単位:mm

F. 壁との取り合い部 F-2. 改修用壁押えカバーを使用する場合

<流れと垂直な壁との納まり>



<流れと平行な壁との納まり>



- 既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
- 受木は、高さ36~45mm、幅60~80mmを選定してください。幅30~40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 本体を受木に合わせて立ち上げ、不要な部分は切り取ってください。
- 壁押えD(II)を既存外壁に留め付け、シーリング材を施工した後、改修用壁押えカバーを施工してください。
- 平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

G. 換気棟の納まり

●換気棟の納まりについて

適用勾配

換気棟／換気棟Lは、屋根勾配2.5寸～10寸に施工できます。
片流れ用換気棟は、屋根勾配2.5寸～6寸に施工できます。

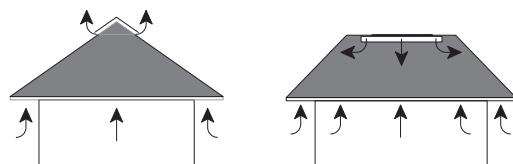
有効開口面積

	有効開口面積(m ² /セット)	適応天井面積(m ² /セット)
換気棟	0.017	27.2
換気棟L	0.028	44.8
片流れ用換気棟	0.016	25.6

各換気棟の設置基準について

住宅金融支援機構 木造住宅工事仕様書に記載の基準に基づく小屋裏換気を行ってください。
軒裏吸気、棟排気に該当します。施工本数は、施工する部材の有効換気面積および適応天井面積に応じて必要長さを算出してください。

軒裏吸気孔：1／900以上
棟排気孔：1／1,600以上



商品図

商品名	商品図	商品名	商品図
換気棟	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 同梱 换気棟用下地 换気棟用捨水切 </div>	換気棟／換気棟L 併用商品	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 商品名 换気棟用エンドキャップ(別売) </div>
換気棟L	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 同梱 换気棟L用下地 换気棟L用捨水切 </div>		

- ・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地(2本)、捨水切(2本)が同梱されています。
換気棟または換気棟Lと棟・隅棟包みDとつなぐ場合には、換気棟用エンドキャップを併用してください。

商品名	商品図	商品名	商品図
片流れ用換気棟	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 同梱 片流れ換気用水切 捨水切 固定ビス(6本) </div>	片流れ用換気棟 併用商品	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 商品名 片流れ用棟包み(別売) </div>

- ・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切(1本)、捨水切(1本)、固定ビス(6本)が同梱されています。
- ・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合、片流れ換気棟用水切を施工してください。

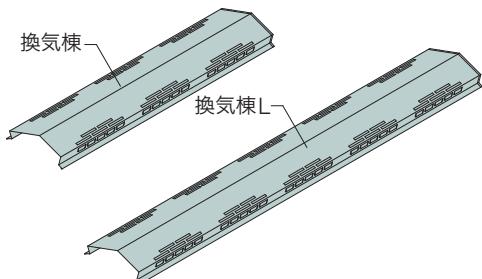
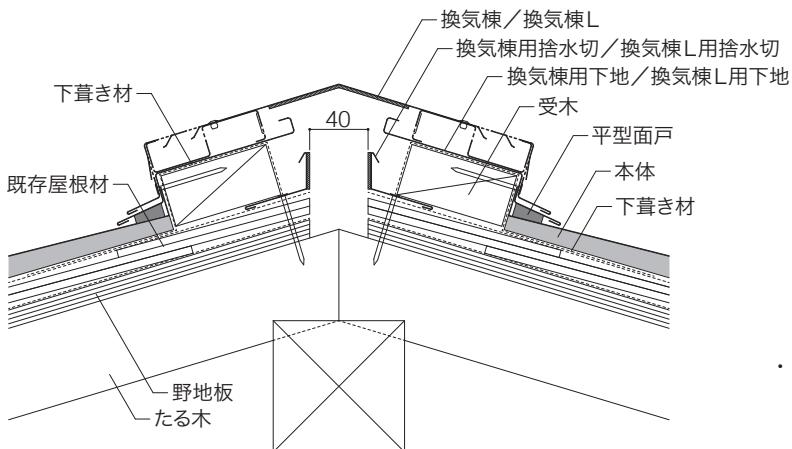
単位:mm

G. 換気棟の納まり

G-1. 換気棟／換気棟L

納まり図

2.5寸～10寸勾配に対応



・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地(2本)、捨水切(2本)が同梱されています。

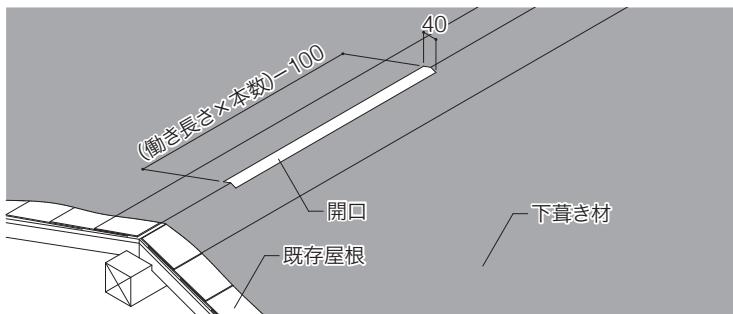
施工手順

図は換気棟です。換気棟Lの場合も同様に施工してください。

①開口をあける

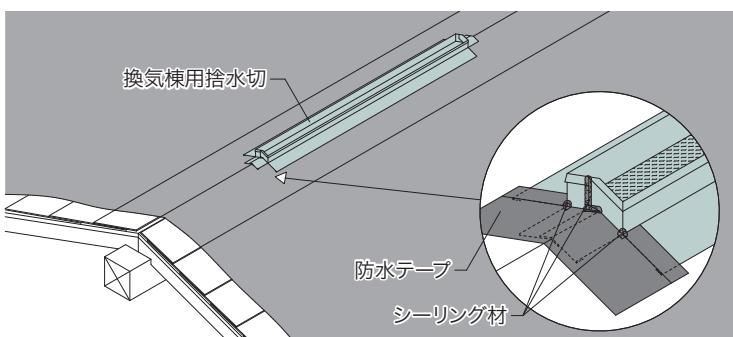
- 棟部に右図の寸法で開口を設けてください。

	換気棟	換気棟L
働き長さ(mm)	1,050	1,750
商品長さ(mm)	1,130	1,830
対応勾配(寸)	2.5～10	



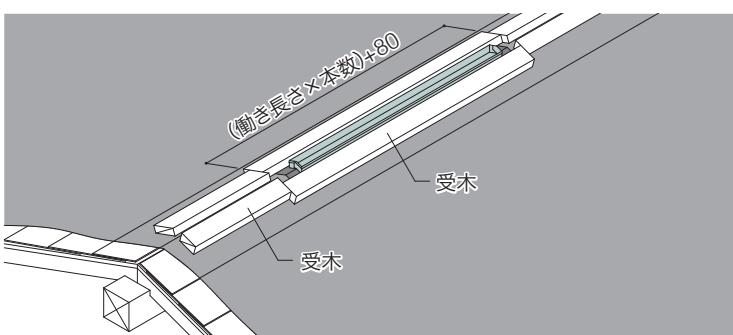
②換気棟用捨水切を施工する

- 開口に合わせて換気棟用捨水切を取り付けてください。
- 換気棟用捨水切の加工部は、シーリング材で防水処理をしてください。
- 換気棟用捨水切と下葺き材とのすき間は、防水テープで防水処理をしてください。



③受木を取り付ける

- 棟・隅棟包みDと換気棟の取り付け位置に合わせて、受木を取り付けてください。
- 受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 換気棟を取り付ける受木の長さは、右図の寸法で取り付けてください。

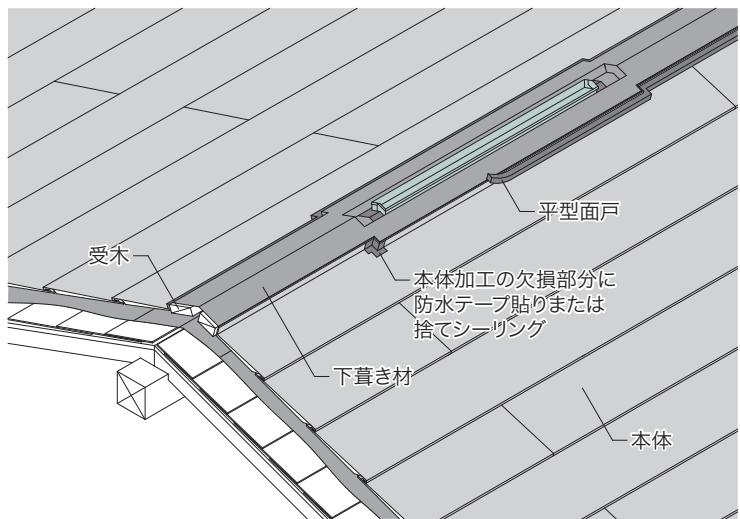


G. 換気棟の納まり

G-1. 換気棟／換気棟L

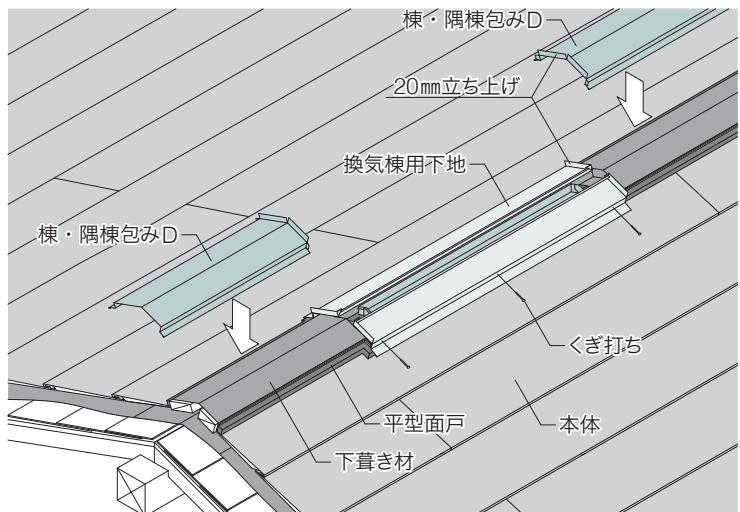
④下葺き材、本体、平型面戸を施工する

- ・受木の上に下葺き材を施工してください。
- ・受木まで本体を張り上げ、平型面戸を貼り付けてください。
- ・棟・隅棟包みDと換気棟の取り合い部の本体は、受木位置に合わせて本体を切り欠き、表面鋼板を立ち上げてください。欠損部分は、防水テープやシーリングで防水処理を施してください。



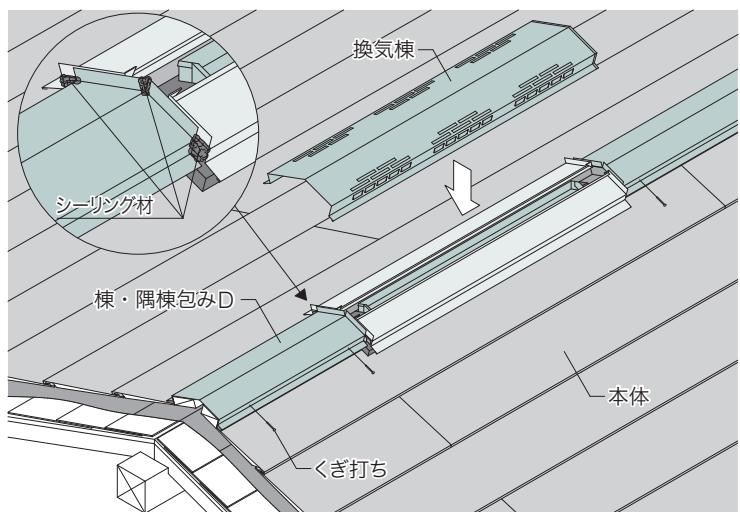
⑤換気棟用下地と棟・隅棟包みDを取り付ける

- ・換気棟用下地と棟・隅棟包みDを20mm立ち上げ加工し取り付け、くぎ打ちしてください。図は、換気棟で掲載しています。
- ・平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。



⑥換気棟を取り付ける

- ・換気棟用下地に換気棟をかぶせて取り付けてください。



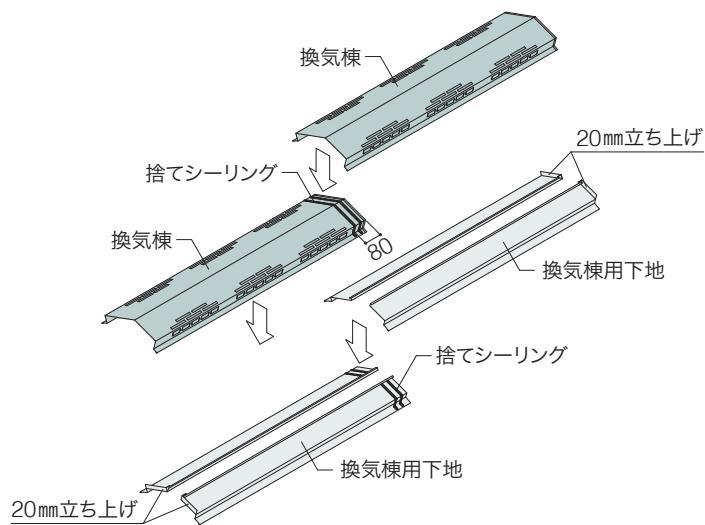
単位：mm

G. 換気棟の納まり

G-1. 換気棟／換気棟L

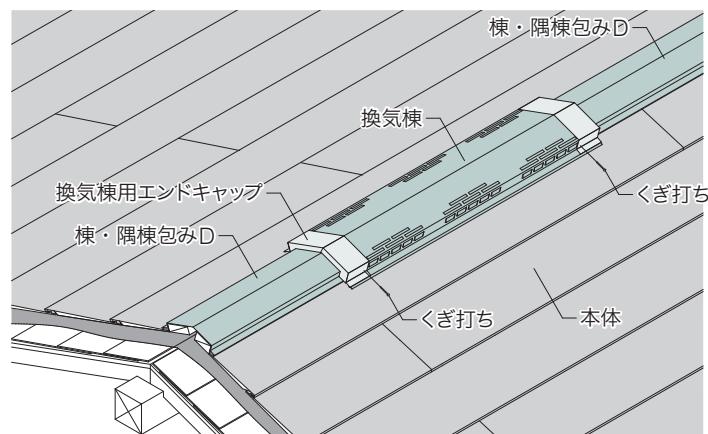
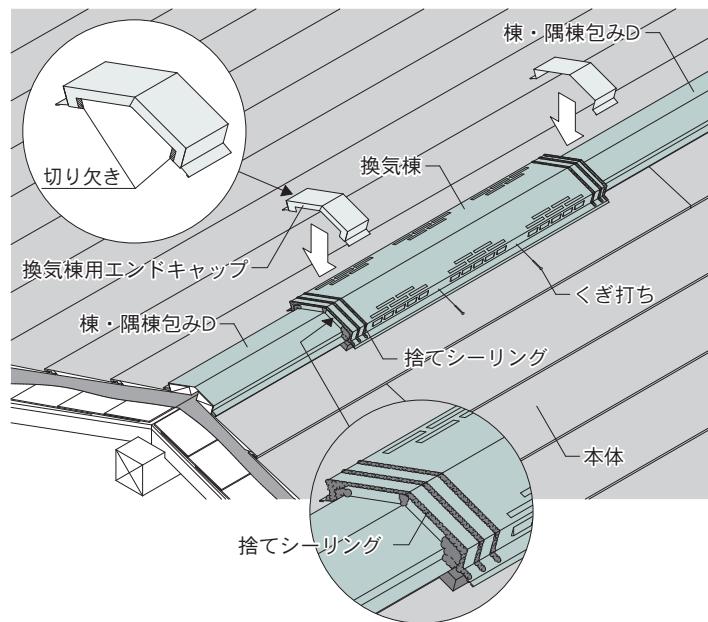
⑦連続施工時の加工方法

- ・換気棟を2本以上つなぐ場合は、右図のように捨てシーリングを施工して重ねてください。



⑧換気棟用エンドキャップを取り付ける

- ・勾配に合わせて右図の部分を切り欠いてください。
- ・換気棟用エンドキャップと重なる部分には、捨てシーリングを施工してください。

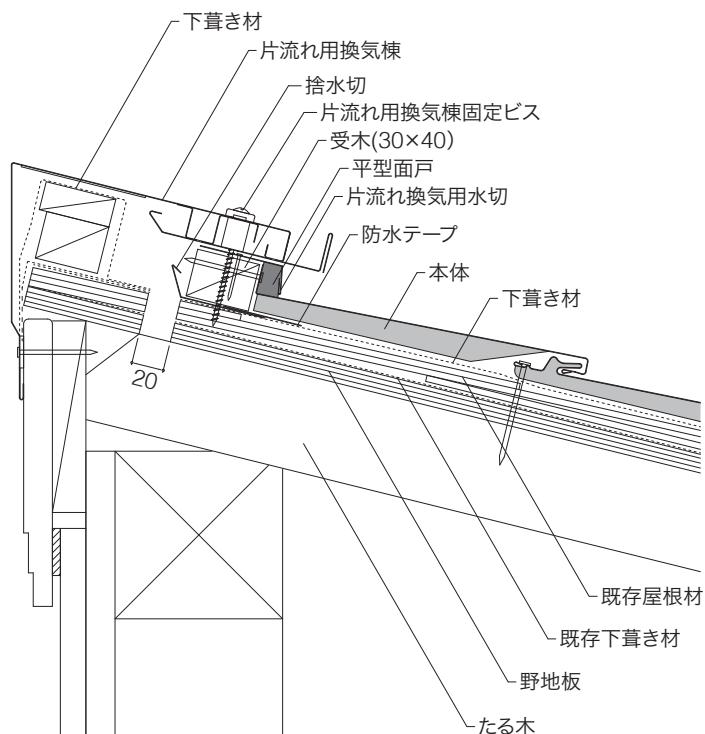


G. 換気棟の納まり

G-2. 片流れ用換気棟

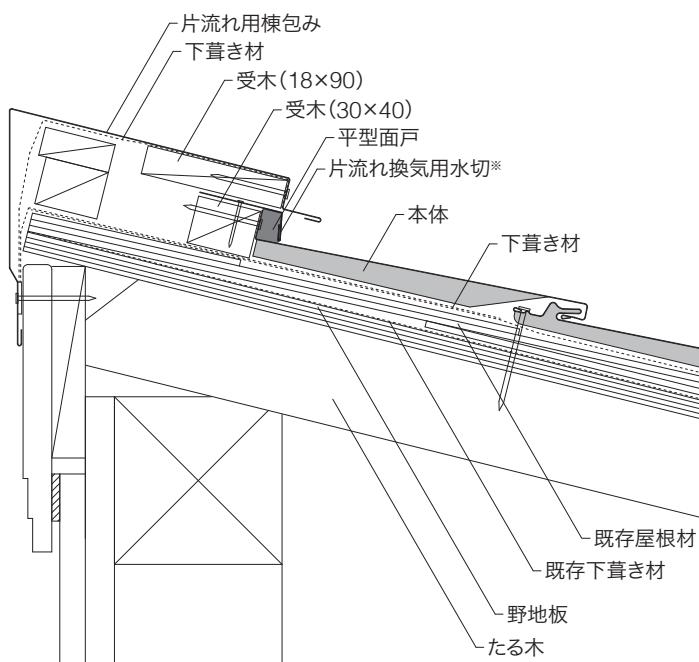
納まり図

2.5寸～6寸勾配に対応



- ・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切(1本)、捨水切(1本)、固定ビス(6本)が同梱されています。

〈片流れ用棟包み〉片流れ換気棟とつなぐ場合



- ・片流れ用棟包みは、片流れ用換気棟とつなぐため、片流れ換気用水切と併用して施工してください。

※ 片流れ用棟包みには、片流れ換気用水切が同梱されておりませんので注意してください。

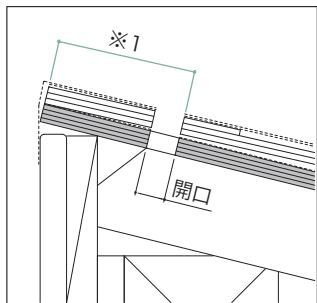
単位:mm

G. 換気棟の納まり G-2. 片流れ用換気棟

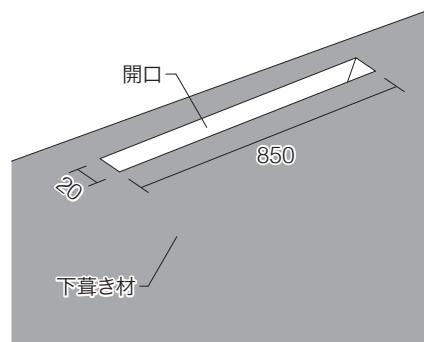
施工手順

①開口をあける

- 開口位置を決めます(下図・表参照)。



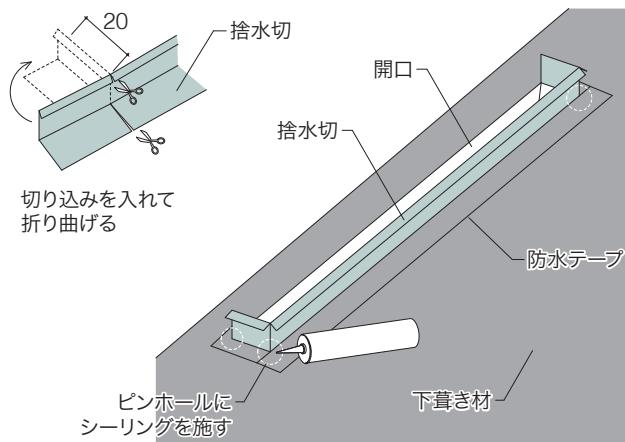
<※1>の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	99mm	4.5 寸	86mm
3 寸	95mm	5 寸	82mm
3.5 寸	93mm	5.5 寸	79mm
4 寸	89mm	6 寸	76mm



- 屋根表面だけでなく、小屋裏の構造も考慮して取り付け位置を決めてください。
- 決めた位置に上記の寸法で開口を開けます。
- 開口後、下葺き材を張ります。
- 連続で施工する場合は、P65を参照してください。

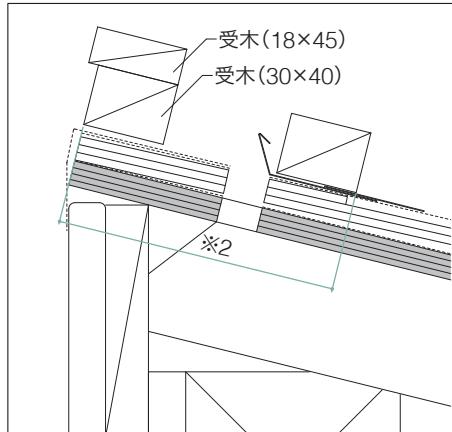
②捨水切の施工

- 捨水切は開口より両端20mm余幅をとっておきます。
- 折り曲げ加工をして開口の三方を囲みくぎで留め付け、捨水切加工部とルーフィングとの境界部に防水テープを貼ってください(右図参照)。
- ピンホールなどにはシーリングを施工してください。



③受木の取り付け

- 受木を施工します(下図・表参照)。

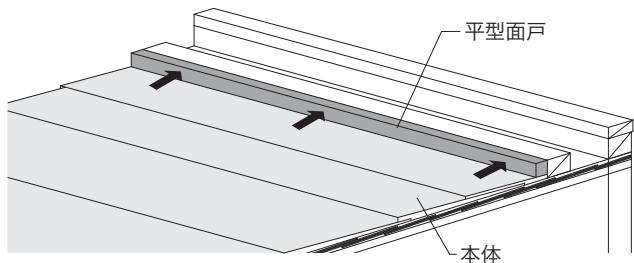
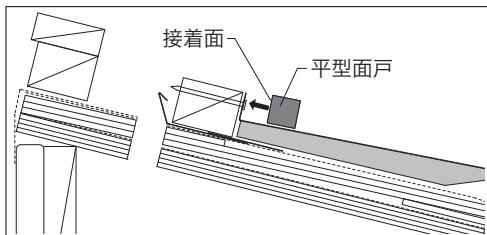


<※2>の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	143mm	4.5 寸	130mm
3 寸	139mm	5 寸	126mm
3.5 寸	137mm	5.5 寸	123mm
4 寸	133mm	6 寸	120mm

G. 換気棟の納まり G-2. 片流れ用換気棟

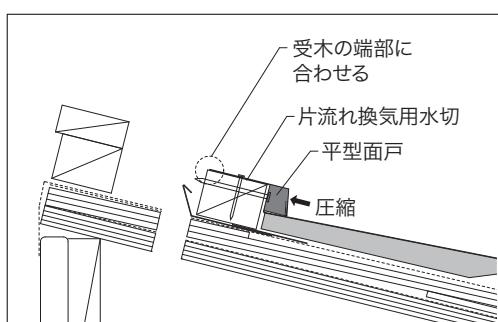
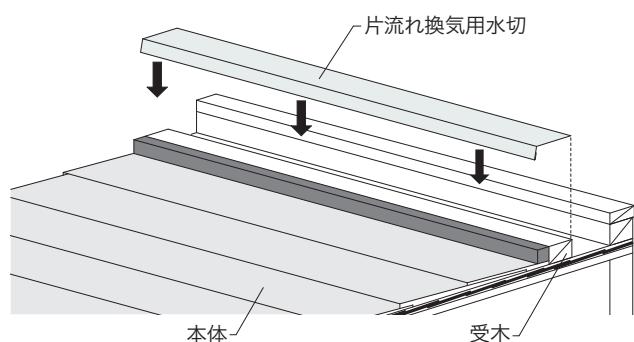
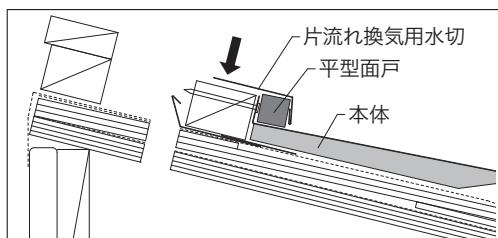
④本体の施工と先端加工

- ③で施工した受木まで本体を葺き、先端部分は立ち上げておきます。
- 立ち上げた本体の側面に平型面戸を貼り付けます。



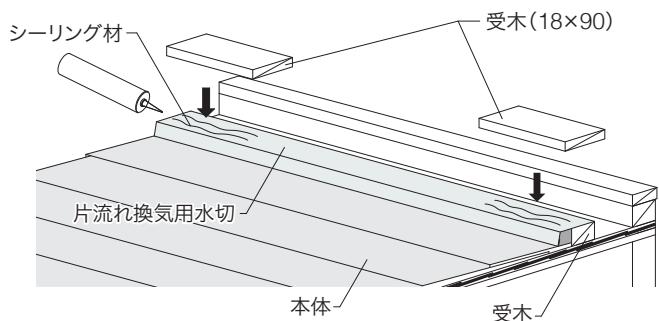
⑤片流れ換気用水切の施工

- 片流れ換気用水切を平型面戸と受木を覆うように施工します。片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合は、片流れ換気用水切を必ず併用して、施工してください。
- 平型面戸を圧縮し、受木の端部に片流れ換気用水切を合わせて留め付けてください。



⑥受木(18×90)の施工

- 片流れ用棟包みを取り付ける場所に受木(18×90)を置きます。
- 受木(18×90)を置く場所にシーリング材で防水処理をしてください。

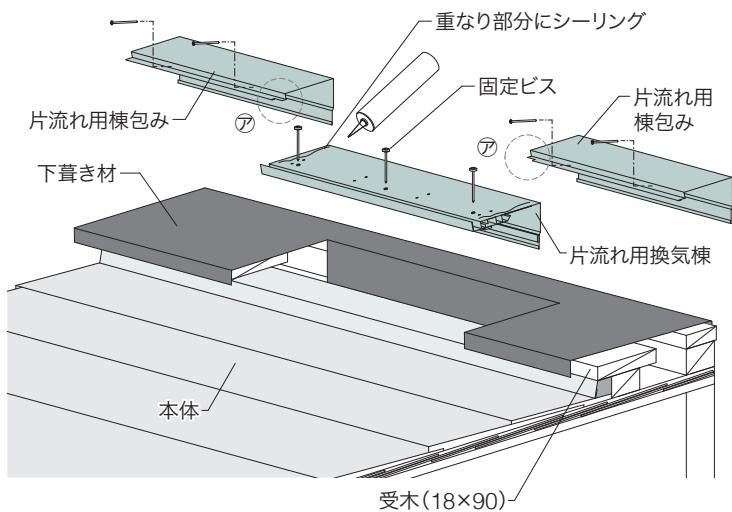
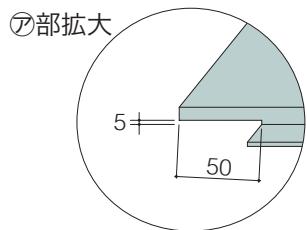


G. 換気棟の納まり G-2. 片流れ用換気棟

⑦ 片流れ用換気棟、片流れ用棟包みの取り付け

⑦-1. 屋根面の施工

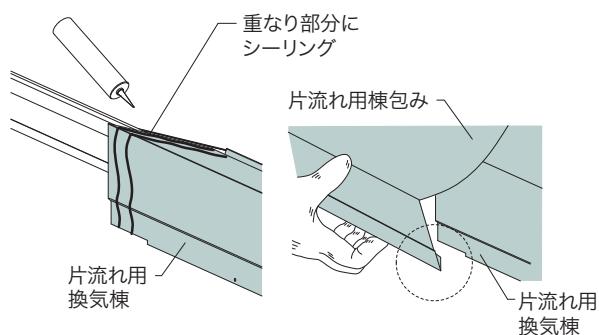
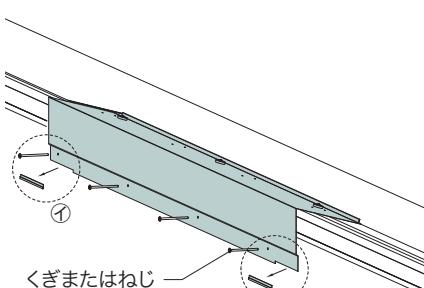
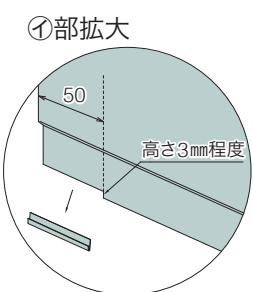
- 受木の上に下葺き材を施工してください。
- 右図を参照して片流れ用換気棟と片流れ用棟包みを施工します。
- 片流れ用換気棟は固定ビスで上部の下穴に留め付けてください。
- 片流れ用換気棟の右側に片流れ用棟包みを施工する場合は、下図(⑦部拡大)を参考に、重なる部分をあらかじめカットしてください。
- 接合重なり部分にはシーリング材で防水処理をしてください。



⑦-2. 壁面の施工

- 壁面には、くぎまたはねじで留め付けてください。
- 片流れ用換気棟の重ね代は、下から3mm、幅50mm程度切り欠いてください(①部拡大)。

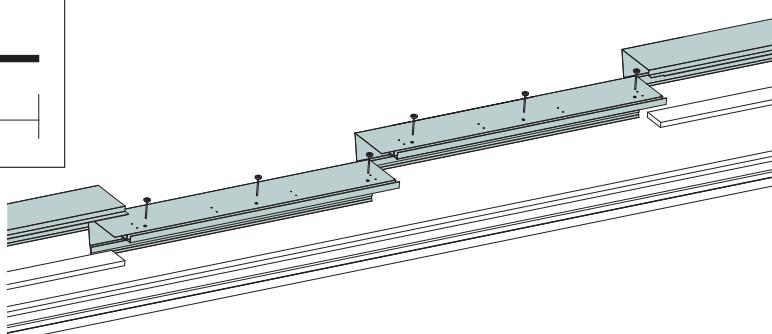
- 片流れ用換気棟の重ね代は、図のように捨てシーリングを施してください。
- 片流れ用棟包みの垂れの折返し部分を片流れ用換気棟切り欠き部分に引っ掛けて接合してください。



⑧ 連続施工時の開口間寸法

- 片流れ用換気棟同士の連続施工の場合は、野地板の開口は片流れ用換気棟の中心を振り分けるか、または下の開口寸法図を参考にして開けてください。開口同士は、通して開けないでください。

連続施工時のピッチ



H. 雪止めの納まり

● スーパーガルテクト用雪止めの取り付け基準

① 適用範囲

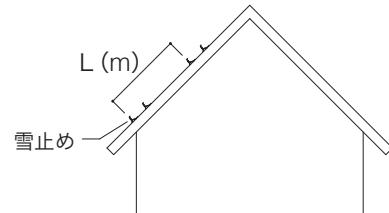
スーパーガルテクト用雪止め(雪止めGT(III)ハネタイプ、雪止めGT(IV)ハネタイプ)は、一般地域(最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域)で使用してください。すがもれのおそれがあります。

② 1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ : L (m)^{※1}

- 対象となる物件(地域)の積雪単位荷重を確認し、下表より雪止めの必要段数を求めてください。
必要段数=屋根の流れ長さ ÷ 1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ
- 屋根材の静止摩擦係数(μ)の値は0.05としています。
- 下表以外については、弊社にお問い合わせください。

積雪単位荷重 : 2 [kg/m² · cm]の場合

積雪量	勾配(寸)						
	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸	5.5寸	6寸	6.5寸
10cm	20m ^{※2}	19.0m	16.9m	15.3m	14.1m	13.1m	12.3m
20cm	10.9m	9.5m	8.5m	7.7m	7.0m	6.6m	6.2m
30cm	7.3m	6.3m	5.6m	5.1m	4.7m	4.4m	4.1m



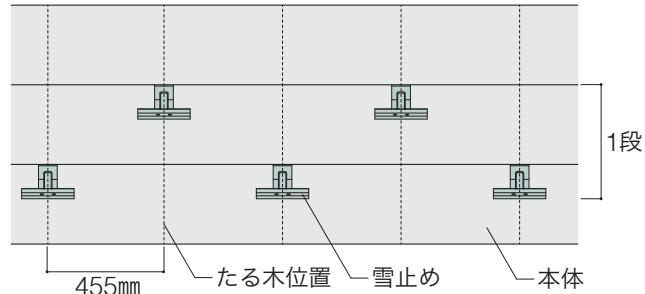
※1 3.5寸未満の勾配は、1段あたりが負担できる屋根の流れ長さを7mとしてください。

※2 この値は、流れ長さの制限に合わせています。(P1参照)

③ 1段あたりの雪止めの取り付け配置

- 1段とは千鳥に2列(455mm間隔)取り付けることを意味します。
- 表より求めた、必要段数の雪止めを施工してください。
- 基準通りに取り付けても、気象条件などによっては、雪が落下することがあります。

⚠️ 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。



● スーパーガルテクト用雪止めの取り付け方

- かん合部に合わせて取り付けてください。
- スーパーガルテクト用雪止めは先付けです。**後付けはできません。
- 本体と同様の留め具を用いて留め付けてください。
- 本体の留め付け方法を野地板留めにする場合は、指定ビスを使用して野地板に留め付けることも可能です。
野地板留めには、指定下葺き材と指定ビスでの施工が必須となります(P13参照)。

